

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-12243

(P2010-12243A)

(43) 公開日 平成22年1月21日(2010.1.21)

|                               |                      |             |
|-------------------------------|----------------------|-------------|
| (51) Int.Cl.                  | F I                  | テーマコード (参考) |
| <b>A 6 3 F 5/04 (2006.01)</b> | A 6 3 F 5/04 5 1 2 D | 2 C 0 8 2   |
|                               | A 6 3 F 5/04 5 1 2 B |             |
|                               | A 6 3 F 5/04 5 1 2 K |             |
|                               | A 6 3 F 5/04 5 1 6 C |             |

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 30 頁)

|              |                              |          |                      |
|--------------|------------------------------|----------|----------------------|
| (21) 出願番号    | 特願2009-135523 (P2009-135523) | (71) 出願人 | 598098526            |
| (22) 出願日     | 平成21年6月4日(2009.6.4)          |          | 株式会社ユニバーサルエンターテインメント |
| (31) 優先権主張番号 | 61/077975                    |          | 東京都江東区有明3丁目7番26号     |
| (32) 優先日     | 平成20年7月3日(2008.7.3)          | (74) 代理人 | 100106002            |
| (33) 優先権主張国  | 米国 (US)                      |          | 弁理士 正林 真之            |
|              |                              | (72) 発明者 | 島田 裕介                |
|              |                              |          | 東京都江東区有明3丁目1番地25     |
|              |                              | (72) 発明者 | 常包 裕一                |
|              |                              |          | 東京都江東区有明3丁目1番地25     |

最終頁に続く

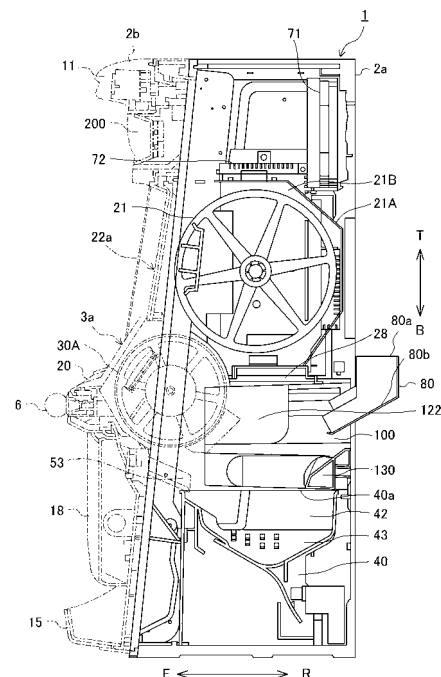
(54) 【発明の名称】 スピーカボックスを筐体の内部に備える遊技機

## (57) 【要約】

【課題】スピーカから出力される効果音等の音質を向上させると共に、保守作業を容易にした遊技機を提供すること。

【解決手段】本発明の遊技機 1 は、遊技媒体の投入口を有する筐体と、上部に遊技媒体を投入可能な開放部 4 2 を有する払出装置 4 0 と、払出装置 4 0 の上方に配置され、遊技媒体を開放部 4 2 に案内する案内部 5 3 と、スピーカユニットと、案内部 5 3 の近傍における払出装置 4 0 の上方に配置され、スピーカユニットが配設される第 1 ボックスと、第 1 ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第 2 ボックスと、第 1 ボックスと第 2 ボックスとを連通させる連通部 1 3 0 と、を有するスピーカボックス 1 0 0 と、を備え、連通部 1 3 0 は、払出装置 4 0 の背面側 R において案内部 5 3 と対向するように配置されると共に、筐体の背面側 R から前面側 F に向かって下り傾斜する傾斜部を有する。

【選択図】図 5



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

遊技媒体が投入される投入口を前面に有する筐体と、  
前記筐体の内部に配置され、上部に前記遊技媒体を投入可能な開放部を有する払出装置と、

前記筐体の内部における前記払出装置の上方に配置され、前記投入口から投入される前記遊技媒体を前記開放部に案内する案内部と、

音を出力するスピーカユニットと、

前記案内部の近傍における前記払出装置の上方に配置され、前記スピーカユニットが配設される第 1 ボックスと、前記第 1 ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第 2 ボックスと、前記第 1 ボックスと前記第 2 ボックスとを連通させる連通部と、を有するスピーカボックスと、を備え、

前記連通部は、前記払出装置の背面側において前記案内部と対向するように配置されると共に、前記筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有することを特徴とする遊技機。

**【請求項 2】**

前記スピーカボックスは、前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置されることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

**【請求項 3】**

筐体と、

前記筐体の内部に配置され、上部に遊技媒体を投入可能な開放部を有する払出装置と、  
前記筐体の背面における前記払出装置の上方に設けられ、前記筐体の外部から前記払出装置に前記遊技媒体を補給可能な補給部と、

音を出力するスピーカユニットと、

前記筐体の内部における前記払出装置の上方に配置され、前記スピーカユニットが配設される第 1 ボックスと、前記第 1 ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第 2 ボックスと、前記第 1 ボックスと前記第 2 ボックスとを連通させる連通部と、を有するスピーカボックスと、を備え、

前記連通部は、前記補給部の下方に配置されると共に、前記筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有することを特徴とする遊技機。

**【請求項 4】**

前記スピーカボックスは、前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置されることを特徴とする請求項 3 に記載の遊技機。

**【請求項 5】**

遊技媒体が投入される投入口を前面に有する筐体と、

前記筐体の背面における払出装置の上方に設けられ、前記筐体の外部から前記払出装置に前記遊技媒体を補給可能な補給部と、

前記筐体の内部に配置され、上部に前記遊技媒体を投入可能な開放部を有する払出装置と、

前記筐体の内部における前記払出装置の上方に配置され、前記投入口から投入される前記遊技媒体を前記開放部に案内する案内部と、

音を出力するスピーカユニットと、

前記案内部の近傍における前記払出装置の上方に配置され、前記スピーカユニットが配設される第 1 ボックスと、前記第 1 ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第 2 ボックスと、前記第 1 ボックスと前記第 2 ボックスとを連通させる連通部と、を有するスピーカボックスと、を備え、

前記連通部は、前記補給部の下方において前記案内部と対向するように配置されると共に、前記筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有することを特徴とする遊技機。

**【請求項 6】**

前記スピーカボックスは、前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置されることを特徴とする請求項 5 に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、スピーカボックスを筐体の内部に備える遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来より、遊技状況に応じてバックグラウンドミュージックや効果音、若しくは音声等  
を出力することにより、遊技者の遊技に対する興趣を高める演出が行われる遊技機が知ら  
れている。例えば、複数の図柄を変動表示するリールを複数配列して構成される遊技機に  
おいては、図柄が変動表示されているときにスピーカから所定の効果音を出力させたり、  
図柄が特定の組合せ（入賞図柄）になった場合にスピーカからバックグラウンドミュージ  
ック等を出力させることによって、遊技における雰囲気盛り上げる演出が行われている  
。

10

【0003】

ところで、近年においては、スピーカから出力される音の音質は、映像等による演出と  
同様に、遊技者の興趣を向上させるための重要な要素の 1 つとして注目されている。例え  
ば、スピーカを個別のスピーカボックスに取り付けることによりスピーカから出力される  
音の音質を向上させ、遊技者の興趣の向上を図った遊技機が開示されている（例えば、特  
許文献 1 参照）。

20

【0004】

一方、遊技機には、一般に、投入された遊技媒体を貯留すると共に、遊技の結果に応じ  
て遊技媒体の払い出しを行う払出装置が設けられている。払出装置は、投入された遊技媒  
体を貯留すると共に、所定量以上の遊技媒体が堆積した場合にはエラーを報知するように  
構成されている（例えば、特許文献 2 参照）。

更に、払出装置に貯留される遊技媒体の貯留量が減少したときに、遊技媒体を自動補給  
機により補給可能な遊技機が開示されている（例えば、特許文献 1 参照）。特許文献 3 に  
開示の遊技機は、払出装置に貯留される遊技媒体が所定量以下になったときに、遊技機の  
背面側に設けられる補給部から遊技媒体を補給することにより、払出装置に貯留される遊  
技媒体が不足することを防止することが可能になる。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開 2000 - 296211 号公報

【特許文献 2】特開 2006 - 230784 号公報

【特許文献 3】特開 2007 - 44143 号公報

【発明の概要】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、特許文献 1 に開示の遊技機は、遊技に係る効果音等の音質を向上させる  
ことは可能となるが、スピーカボックスを遊技機の筐体正面に配置しているため他の演出  
、例えば、映像等による演出を行う領域が狭くなるという問題があった。

【0007】

また、特許文献 2 及び 3 に開示の遊技機のように上方が開放された開放部を有する払出  
装置においては、例えば、払出装置内における遊技媒体の偏った堆積やメダルの落下速度  
との関係等により、投入時に遊技媒体が開放部から飛散する場合がある。同様に、補給部  
を介して自動補給機により遊技媒体を補給する場合、補給部と払出装置の開放部とが離間

50

していることより、自動補給機により大量の遊技媒体が排出されると、遊技媒体が開放部から飛散する場合がある。遊技媒体が開放部から飛散すると、遊技媒体が筐体内部にばらまかれ、回収が困難となる。そして、筐体内部にばらまかれた遊技媒体を回収することは、管理者にとって非常に煩わしい作業であった。

【0008】

本発明は、スピーカから出力される効果音等の音質を向上させると共に、筐体内部に配置される払出装置から遊技媒体が飛散することを抑制することにより、保守作業を容易にした遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

(1) 遊技媒体が投入される投入口を前面に有する筐体と、前記筐体の内部に配置され、上部に前記遊技媒体を投入可能な開放部を有する払出装置と、前記筐体の内部における前記払出装置の上方に配置され、前記投入口から投入される前記遊技媒体を前記開放部に案内する案内部と、音を出力するスピーカユニットと、前記案内部の近傍における前記払出装置の上方に配置され、前記スピーカユニットが配設される第1ボックスと、前記第1ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第2ボックスと、前記第1ボックスと前記第2ボックスとを連通させる連通部と、を有するスピーカボックスと、を備え、前記連通部は、前記払出装置の背面側において前記案内部と対向するように配置されると共に、前記筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有することを特徴とする遊技機。

【0010】

(1)記載の発明によれば、本発明の遊技機は、スピーカユニットが配設される第1ボックスと、前記第1ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第2ボックスと、前記第1ボックスと前記第2ボックスとを連通させる連通部と、を有するバスレフ型のスピーカボックスを備える。そのため、スピーカユニットから出力された音は、スピーカボックスの内部空間を音響空間として利用可能となると共に、放出パイプから重低音が増幅されて出力されるため、臨場感に溢れる演出を行うことができる。これにより、遊技者の遊技に対する興味や興奮を高揚させることが可能となる。

【0011】

また、本発明の遊技機は、払出装置に設けられる開放部の上方にスピーカボックスを配置すると共に、筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有する連通部が払出装置の背面側に配置される。そのため、例えば、案内部から投入された遊技媒体が筐体の背面側に飛散した場合においても、遊技媒体を払出装置側に誘導させることが可能になる。これにより、筐体の床面等に遊技媒体が散点することを抑制することが可能になり、遊技機の保守作業が容易になる。

【0012】

(2) 前記スピーカボックスが前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置されることを特徴とする(1)に記載の遊技機。

【0013】

(2)記載の発明によれば、本発明の遊技機は、更に、スピーカボックスが前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置される。そのため、遊技媒体の投入を妨げることなく、例えば、遊技媒体が払出装置の外部に飛散することを防止することが可能になる。これにより、筐体の床面等に遊技媒体が散点することを防止することが可能になり、遊技機の保守作業が容易になる。

【0014】

(3) 筐体と、前記筐体の内部に配置され、上部に遊技媒体を投入可能な開放部を有する払出装置と、前記筐体の背面における前記払出装置の上方に設けられ、前記筐体の外部から前記払出装置に前記遊技媒体を補給可能な補給部と、音を出力するスピーカユニットと、前記筐体の内部における前記払出装置の上方に配置され、前記スピーカユニットが配設される第1ボックスと、前記第1ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイ

10

20

30

40

50

ブを有する第2ボックスと、前記第1ボックスと前記第2ボックスとを連通させる連通部と、を有するスピーカボックスと、を備え、前記連通部は、前記補給部の下方に配置されると共に、前記筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有することを特徴とする遊技機。

【0015】

(3)記載の遊技機によれば、本発明の遊技機は、スピーカユニットが配設される第1ボックスと、前記第1ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第2ボックスと、前記第1ボックスと前記第2ボックスとを連通させる連通部と、を有するバスレフ型のスピーカボックスを備える。そのため、スピーカユニットから出力された音は、スピーカボックスの内部空間を音響空間として利用可能となると共に、放出パイプから重低音が増幅されて出力されるため、臨場感に溢れる演出を行うことができる。これにより、遊技者の遊技に対する興味や興奮を高揚させることが可能となる。

10

【0016】

また、本発明の遊技機は、払出装置に設けられる開放部の上方にスピーカボックスを配置すると共に、筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有する連通部が補給部の下方に配置される。そのため、例えば、補給部から補給された遊技媒体を零すことなく払出装置側に誘導させることが可能になる。これにより、筐体の床面等に遊技媒体が散点することを抑制することが可能になり、遊技機の保守作業が容易になる。

【0017】

(4) 前記スピーカボックスが前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置されることを特徴とする(3)に記載の遊技機。

20

【0018】

(4)記載の発明によれば、本発明の遊技機は、更に、スピーカボックスが前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置される。そのため、遊技媒体の投入を妨げることなく、例えば、遊技媒体が払出装置の外部に飛散することを防止することが可能になる。これにより、筐体の床面等に遊技媒体が散点することを防止することが可能になり、遊技機の保守作業が容易になる。

【0019】

(5) 遊技媒体が投入される投入口を前面に有する筐体と、前記筐体の背面における払出装置の上方に設けられ、前記筐体の外部から前記払出装置に前記遊技媒体を補給可能な補給部と、前記筐体の内部に配置され、上部に前記遊技媒体を投入可能な開放部を有する払出装置と、前記筐体の内部における前記払出装置の上方に配置され、前記投入口から投入される前記遊技媒体を前記開放部に案内する案内部と、音を出力するスピーカユニットと、前記案内部の近傍における前記払出装置の上方に配置され、前記スピーカユニットが配設される第1ボックスと、前記第1ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第2ボックスと、前記第1ボックスと前記第2ボックスとを連通させる連通部と、を有するスピーカボックスと、を備え、前記連通部は、前記補給部の下方において前記案内部と対向するように配置されると共に、前記筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有することを特徴とする遊技機。

30

【0020】

(5)記載の発明によれば、本発明の遊技機は、スピーカユニットが配設される第1ボックスと、前記第1ボックスの内部に出力された音を放出する放出パイプを有する第2ボックスと、前記第1ボックスと前記第2ボックスとを連通させる連通部と、を有するバスレフ型のスピーカボックスを備える。そのため、スピーカユニットから出力された音は、スピーカボックスの内部空間を音響空間として利用可能となると共に、放出パイプから重低音が増幅されて出力されるため、臨場感に溢れる演出を行うことができる。これにより、遊技者の遊技に対する興味や興奮を高揚させることが可能となる。

40

【0021】

また、本発明の遊技機は、払出装置に設けられる開放部の上方にスピーカボックスを配置すると共に、筐体の背面側から前面側に向かって下り傾斜する傾斜部を有する連通部が

50

払出装置の背面側に配置される。また、連通部は、補給部の下方に配置される。そのため、例えば、案内部から投入された遊技媒体が筐体の背面側に飛散した場合においても、遊技媒体を払出装置側に誘導させることが可能になる。また、例えば、補給部から補給された遊技媒体を零すことなく払出装置側に誘導させることが可能になる。これにより、筐体の床面等に遊技媒体が散点することを抑制することが可能になり、遊技機の保守作業が容易になる。

【 0 0 2 2 】

( 6 ) 前記スピーカボックスが前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置されることを特徴とする ( 5 ) に記載の遊技機。

10

【 0 0 2 3 】

( 6 ) 記載の発明によれば、本発明の遊技機は、更に、スピーカボックスが前記開放部の少なくとも一部を覆うように配置される。そのため、遊技媒体の投入を妨げることなく、例えば、遊技媒体が払出装置の外部に飛散することを防止することが可能になる。これにより、筐体の床面等に遊技媒体が散点することを防止することが可能になり、遊技機の保守作業が容易になる。

【 発明の効果 】

【 0 0 2 4 】

本発明によれば、スピーカから出力される効果音等の音質を向上させると共に、筐体内部に配置される払出装置から遊技媒体が飛散することを抑制することにより、保守作業を容易にした遊技機を提供することができる。

20

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 5 】

【 図 1 】 本発明の実施形態に係る遊技機を前面側から見た外観斜視図である。

【 図 2 】 前記実施形態に係る遊技機を背面側から見た外観斜視図である。

【 図 3 】 前記実施形態に係る遊技機の前面扉の内部構造を示す外観斜視図である。

【 図 4 】 前記実施形態に係る遊技機のキャビネットの内部構造を示す外観斜視図である。

【 図 5 】 前記実施形態に係る遊技機のキャビネットの内部構造を示す側面図である。

【 図 6 】 前記実施形態に係る遊技機のキャビネットの内部に配設されるスピーカボックスとホッパーを示す外観斜視図である。

30

【 図 7 】 前記実施形態に係る遊技機に配設されるスピーカボックスの外観斜視図である。

【 図 8 】 前記実施形態に係る遊技機に配設されるスピーカボックスの正面図である。

【 図 9 】 前記実施形態に係る遊技機に配設されるスピーカボックスの背面図である。

【 図 1 0 】 前記実施形態に係る遊技機に配設されるスピーカボックスの平面図である。

【 図 1 1 】 図 9 の X - X 断面図である。

【 図 1 2 】 図 9 の Y - Y 断面図である。

【 図 1 3 】 前記実施形態に係る遊技機の電気回路の構成を示すブロック図である。

【 図 1 4 】 本発明の実施形態に係る遊技機のスピーカボックスとホッパーとの位置関係を示すキャビネットの正面図である。

【 図 1 5 】 前記実施形態に係る遊技機の遊技機に係る機器の位置関係を示す筐体の側面図である。

40

【 図 1 6 】 本発明の第 1 変形例に係る遊技機のキャビネットの背面側を示す背面図である。

【 図 1 7 】 本発明の第 1 変形例に係る遊技機に配設されるスピーカボックスの外観斜視図である。

【 図 1 8 】 本発明の第 2 変形例に係る遊技機に配設されるスピーカボックスの外観斜視図である。

【 図 1 9 】 本発明の第 2 変形例に係る遊技機に配設されるスピーカボックスの断面を示す斜視断面図である。

【 図 2 0 】 本発明の第 2 変形例に係る遊技機のスピーカボックスの配置位置を示すキャビ

50

ネットの外観斜視図である。

【図 2 1】本発明の第 2 変形例に係る遊技機のスピーカボックスの配置位置を示すキャビネットの正面図である。

【発明を実施するための形態】

【0026】

以下、本発明を実施するための形態について、図面を参照しながら説明する。

本発明に係る遊技機は、コイン、メダル、遊技球又はトークンなどの他、遊技者に付与された、又は付与される遊技価値の情報を記憶したカードなどの遊技媒体を用いて遊技する遊技機である。以下の実施形態においては、本発明に係る遊技機は、遊技媒体としてメダルを用いて遊技を行う遊技機、いわゆるパチスロ機を用いて説明する。

10

【0027】

最初に、図 1 及び図 2 を参照して、本発明の一実施形態に係る遊技機 1 の外観構成を説明する。図 1 は、本発明の実施形態に係る遊技機 1 を前面側から見た外観斜視図である。図 2 は、前記実施形態に係る遊技機 1 を背面側から見た外観斜視図である。

【0028】

図 1 及び図 2 に示すように、遊技機 1 の外観は、筐体 2 によって構成されている。筐体 2 は、前面側 F に配置される前面扉 2 a と、前面扉 2 a の背面側 R に配置されるキャビネット 2 b と、を主体に構成されている。前面扉 2 a は、キャビネット 2 b の前面側 F の端部に軸支されており、キャビネット 2 b を開閉可能に配設されている。キャビネット 2 b は、内部に遊技に用いられる機器を収容する。

20

【0029】

図 1 に示すように、前面扉 2 a の前面には、略中央部に矩形状のメイン表示窓 3 a が設けられている。メイン表示窓 3 a には、内部にリール窓枠体 3 b が取り付けられており、リール窓枠体 3 b には、3 つの矩形状の窓枠表示領域 4 L, 4 C, 4 R が並列状態（横一列）に設けられている。窓枠表示領域 4 L, 4 C, 4 R は、筐体の内部を視認可能に形成されており、後述のメインリール 3 L, 3 C, 3 R の動作やメインリール 3 L, 3 C, 3 R に描かれている図柄を表示させる。

【0030】

メイン表示窓 3 a の下部側 B には、略水平状の台座部 1 2 が設けられている。台座部 1 2 におけるメイン表示窓 3 a の一方側 R 1（図 1 の筐体 2 を前面側 F から見た右側をいい、以下、筐体 2 を前面側 F から見た右側を「一方側」という。）には、メダルを投入するためのメダル投入口 5 が設けられている。メダル投入口 5 から投入されたメダルは、クレジットされるか又はゲームに賭けられる。

30

【0031】

台座部 1 2 におけるメイン表示窓 3 a の他方側 L（図 1 の筐体 2 を前面側 F から見た左側をいい、以下、筐体 2 を前面側 F から見た左側を「他方側」という。）には、クレジットされているメダルを賭けるための 1 - BET ボタン 8 a と、MAX BET ボタン 8 b と、が設けられている。1 - BET ボタン 8 a は、遊技者の押しボタン操作によりメダルの投入枚数「1 枚」が選択されるように構成されている。また、最大 BET ボタン 8 b は、遊技者の押しボタン操作によりメダルの投入枚数「3 枚」が選択されるように構成されている。

40

【0032】

1 - BET ボタン 8 a、及び MAX BET ボタン 8 b の前面側 F には、スタートレバー 6 が設けられている。スタートレバー 6 は、遊技者の操作によりメインリール 3 L, 3 C, 3 R を回転駆動させると共に、窓枠表示領域 4 L, 4 C, 4 R 内で図柄の変動表示を開始させる。スタートレバー 6 は、所定の角度範囲で傾動自在に取り付けられている。

【0033】

スタートレバー 6 の一方側 R 1 には、メインリール 3 L, 3 C, 3 R の回転を停止させるための停止ボタン 7 L, 7 C, 7 R が設けられている。なお、1 ゲーム（単位遊技）は、遊技者によりスタートレバー 6 が操作されることによって開始され、遊技者が停止ボタ

50

ン 7 L , 7 C , 7 R を押しボタン操作することにより、全てのメインリール 3 L , 3 C , 3 R が停止した時に終了する。各停止ボタン 7 L , 7 C , 7 R の裏側には、停止ボタン 7 L , 7 C , 7 R の停止操作を検知するストップスイッチ 7 L S , 7 C S , 7 R S ( 図示せず ) が設けられている。

【 0 0 3 4 】

停止ボタン 7 L , 7 C , 7 R の一方側には、C / P ボタン 1 3 が設けられている。C / P ボタン 1 3 は、遊技者がゲームで獲得したメダルのクレジット / 払出しを遊技者の押しボタン操作で切り換える。この C / P ボタン 1 3 の切り換えにより、前面扉 2 a の下部側 B に設けたメダル払出口 1 4 からメダルが払出される。払出されたメダルは、メダル受け部 1 5 に溜められる。

10

【 0 0 3 5 】

スタートレバー 6、停止ボタン 7 L , 7 C , 7 R、及び C / P ボタン 1 3 の下部側 B には、腰部パネル 1 8 が設けられている。腰部パネル 1 8 は、アクリル板などを使用した化粧用パネルにより構成されている。腰部パネル 1 8 には、遊技機 1 の機種を表す名称や種々の模様などが印刷されている。また、メダル払出口 1 4 の一方側 R 1 には、遊技に係る効果音等を出力するスピーカ 2 6 が設けられている。

【 0 0 3 6 】

メイン表示窓 3 a の上部側 T には、矩形状の開口部として形成されたパネル表示部 1 9 が設けられている。パネル表示部 1 9 には、表面に矩形状のアクリル板などが使用された透明パネル 1 9 a が取り付けられている。透明パネル 1 9 a の前面側 F には、パネルホルダ 1 9 b が装着されている。パネルホルダ 1 9 b には、第 1 表示窓 2 2 a が設けられている。また、パネルホルダ 1 9 b には、遊技情報が印刷された遊技情報シート 1 9 c が貼付されている。遊技情報シート 1 9 c には、第 1 表示窓 2 2 a 内にサブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R を視認させるための 3 つの矩形状の開口 2 2 L , 2 2 C , 2 2 R が切り抜かれている。3 つの開口 2 2 L , 2 2 C , 2 2 R は、サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R の動作やサブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R 上に描かれている図柄を遊技者に視認可能にさせる。

20

【 0 0 3 7 】

第 1 表示窓 2 2 a の他方側 L には、上部側 T から順に 1 - B E T ランプ 9 a、最大 B E T ランプ 9 b、ボーナス遊技情報表示部 1 6、及びクレジット表示部 1 7 が設けられている。1 - B E T ランプ 9 a、最大 B E T ランプ 9 b は、単位遊技を行うために投入されたメダル数 ( 以下「B E T 数」という ) に応じて点灯するランプである。具体的には、1 - B E T ランプ 9 a は、投入枚数が 1 枚のときに点灯し、最大 B E T ランプ 9 b は、投入枚数が 3 枚のときに点灯する。

30

【 0 0 3 8 】

ボーナス遊技情報表示部 1 6 は、7 セグメント L E D により形成されている。ボーナス遊技情報表示部 1 6 は、ボーナス中の遊技情報 ( ボーナスゲーム中の遊技回数 ) を表示する。

【 0 0 3 9 】

クレジット表示部 1 7 は、それぞれ 7 セグメントの L E D により形成されている。クレジット表示部 1 7 は、クレジットされている残メダル枚数を表示する。なお、遊技機 1 にクレジットされる最大枚数は 5 0 枚であるため、このクレジット表示部 2 9 a に表示されるクレジット枚数は、通常 5 0 以下の数値となる。また、最大枚数の 5 0 枚のメダルがクレジットされている状態では、投入されたメダルはそのまま払い出される。

40

【 0 0 4 0 】

パネル表示部 1 9 の上部側 T には、上部ユニット 1 1 が装着されている。上部ユニット 1 1 は、液晶表示装置 1 1 a、複数の L E D ( 図示せず ) 及びスピーカ 2 5 L , 2 5 R を主体に構成されている。液晶表示装置 1 1 a は、演出に関する種々の情報を表示する。複数の L E D は、演出に関する種々の情報を報知する。スピーカ 2 5 L , 2 5 R は、遊技及び演出に関する種々の効果音等を出力する。また、前面扉 2 a の両側には、一対のサイド

50

カバー 90L, 90R が設けられている。一対のサイドカバー 90L, 90R は、取り付けネジにより筐体 2 に固定支持されている。

【0041】

図 2 に示すように、キャビネット 2b の背板には、略中央部にメダル補給部 80 が設けられている。メダル補給部 80 は、キャビネット 2b の背板に形成された補給口 81 を介して筐体 2 の外部と筐体 2 の内部とを連通させており、筐体 2 の外部に配置されたメダル補給機（図示せず）から補給されるメダルを後述のホッパー 40（払出装置）に案内する（後に説明する図 5 参照）。

【0042】

メダル補給部 80 は、投入部 80a と、メダル通路部 80b と、を主体に構成されている。投入部 80a は、上方が開口しており、メダル補給機から補給されるメダルが投入される。メダル通路部 80b は、投入部 80a と連結されており、投入部 80a に投入されたメダルをホッパー 40 に案内する。メダル通路部 80b は、筐体 2 の背面側 R から前面側 F に向かって下り傾斜する傾斜面を有しており、投入されたメダルは、この傾斜面を滑りながらホッパー 40 に案内される。

【0043】

なお、本実施形態においては、遊技機 1 にメダルを補給する補給方法として、メダル補給機により補給する構成としたが、管理者が前面扉 2a を開いて直接ホッパー 40 にメダルを補給することもできる。例えば、メダル補給機を有さない遊技店等においては、管理者が直接ホッパー 40 にメダルを補給する。

【0044】

メダル補給部 80 の一方側 R1 には、後述の第 1 ボックス 110 が配設される第 1 取付部 91 が設けられている。第 1 取付部 91 は、第 1 開口部 92 と、スピーカカバー 93 と、を主体に構成されている。第 1 開口部 92 は、第 1 ボックス 110 に取り付けられるスピーカユニットの口径と略同形状に形成されており、キャビネット 2b の背板を貫通するように形成されている。スピーカカバー 93 は、第 1 開口部 92 を覆うようにキャビネット 2b の背板に取り付けられている。スピーカカバー 93 には、複数の開孔が形成されており、スピーカユニット 101 の後に説明する正面側から出力される効果音等を筐体 2 の外部に放出可能にする。

【0045】

一方、メダル補給部 80 の他方側 L には、後述の第 2 ボックス 120 が配設される第 2 取付部 94 が設けられている。第 2 取付部 94 は、第 2 開口部 95 と、背部カバー 96 と、を主体に構成されている。第 2 開口部 95 は、キャビネット 2b の背板を貫通するように形成されている。背部カバー 96 は、第 2 開口部 95 を覆うようにキャビネット 2b の背板に取り付けられている。また、背部カバー 96 は、キャビネット 2b の背板から取り外し可能に形成されている。

【0046】

なお、本実施形態においては、第 2 取付部 94 は、キャビネット 2b の背板を貫通する第 2 開口部 95 と、第 2 開口部 95 を覆う背部カバー 96 と、を主体に構成したが、第 2 取付部 94 は、開口を有さない構成であってもよい。つまり、キャビネット 2b の背板に第 2 ボックス 120 を取付可能な取付部が設けられる構成であればよい。

【0047】

次に、図 3 から図 12 を参照して、遊技機 1 の内部構成について説明する。

まず、前面扉 2a の内部構成について説明する。図 3 は、前記実施形態に係る遊技機 1 の前面扉 2a の内部構成を示す外観斜視図である。

【0048】

図 3 に示すように、前面扉 2a には、裏面の略中央部に遊技に係る図柄を変動表示させるメインリールユニット 30A（第 1 変動表示装置）が装着されている。メインリールユニット 30A は、前述のメイン表示窓 3a に対向するように配設されており、メイン表示窓 3a に設けられた 3 つの窓枠表示領域 4L, 4C, 4R を通じて、遊技者が各メインリ

10

20

30

40

50

ール 3 L , 3 C , 3 R の動作や各メインリール 3 L , 3 C , 3 R 上に描かれている図柄を視認可能に配設されている。

【 0 0 4 9 】

メインリールユニット 3 0 A は、メインリール 3 L , 3 C , 3 R と、リール収容カバー 3 1 A と、を主体に構成されている。メインリール 3 L , 3 C , 3 R は、複数種類の図柄が各々の外周面に描かれた 3 個のリールから構成されている。メインリール 3 L , 3 C , 3 R は、それぞれが縦方向に一定の速度で回転できるように前面扉 2 a に対して並列状態（横一列）に配設される。

【 0 0 5 0 】

リール収容カバー 3 1 A は、メインリール 3 L , 3 C , 3 R の周囲を覆うように形成されており、主カバー部 3 1 a と、一対の側面カバー部 3 1 b と、を主体に構成されている。

10

主カバー部 3 1 a は、全体が略円弧型に形成されており、メインリール 3 L , 3 C , 3 R を保護するようにメインリール 3 L , 3 C , 3 R の背面側（前面扉 2 a の裏面側）を被覆している。一対の側面カバー部 3 1 b は、並列状態に配設されたメインリール 3 L , 3 C , 3 R の両側を保護する。

【 0 0 5 1 】

また、主カバー部 3 1 a には、3 箇所の挿通口 3 1 c 及び 3 箇所の通孔 3 1 d が形成されている。3 箇所の挿通口 3 1 c は、リール収容カバー 3 1 A の内部に設けられたステッピングモータ 4 9 L , 4 9 C , 4 9 R （図示せず）を制御する制御基板（図示せず）に接続させるために設けられている。3 箇所の通孔 3 1 d は、遊技店の係員などがメインリール 3 L , 3 C , 3 R を目視により確認したり、手で直接動かして回転させるために設けられている。

20

【 0 0 5 2 】

前面扉 2 a の裏面におけるメインリールユニット 3 0 A の一方側 R 1 （図 3 における R 1 側）には、メダルセクタ 5 0 が設けられている。メダルセクタ 5 0 は、メダル投入口 5 から投入されたメダルがメダルセクタ 5 0 の内部に形成されたメダル通路（図示せず）を通過する際に、メダルの真偽を判別する。メダルセクタ 5 0 は、例えば、メダル投入口 5 から投入されたメダルが正規メダルと判別した場合には、投入されたメダルをカウントすると共に、メダル通路の排出側に接続されている案内部 5 3 に投入されたメダルを案内する。

30

【 0 0 5 3 】

案内部 5 3 は、メダル通路から排出されたメダルをキャビネット 2 b に配置されるホッパー 4 0 （図 4 参照）に案内する。案内部 5 3 は、前面扉 2 a の前面側 F から背面側 R に向かって下り傾斜する傾斜面を有しており、投入されたメダルは、この傾斜面を滑りながらホッパー 4 0 に案内される。案内部 5 3 は、筐体 2 の前面扉 2 a を閉じた状態において、ホッパー 4 0 の上方に配設されている（後に説明する図 5 参照）。これにより、案内部 5 3 は、メダル通路（図示せず）を通じて排出されたメダル（正規メダル）をホッパー 4 0 に案内可能となる。

【 0 0 5 4 】

40

メダルセクタ 5 0 の下部側 B には、キャンセルシュート 5 1 が設けられている。更に、キャンセルシュート 5 1 の下部側 B には、キャンセルシュート 5 2 が設けられている。メダルセクタ 5 0 は、メダル投入口 5 から投入されたメダルが不正メダルと判別した場合には、投入されたメダルをメダル通路から案内部 5 3 に案内せず、メダルセクタ 5 0 の下部側 B に設けたキャンセルシュート 5 1 を通じて、キャンセルシュート 5 2 の内部に落下させる。

【 0 0 5 5 】

キャンセルシュート 5 2 は、キャンセルシュート 5 1 を通じて排出されたメダル（不正メダル）或いは、ホッパー 4 0 から払い出されるメダルをメダル払出口 1 4 からメダル受け部 1 5 に排出させる。

50

## 【 0 0 5 6 】

メインリールユニット 3 0 A の上部側 T には、前述のパネル表示部 1 9 が設けられている。また、パネル表示部 1 9 の上部側 T には、液晶表示装置 1 1 a 及びスピーカ 2 5 L , 2 5 R が取り付けられた前述の上部ユニット 1 1 が配設されている。

## 【 0 0 5 7 】

次に、キャビネット 2 b の内部構成について説明する。

図 4 は、本実施形態に係る遊技機 1 のキャビネット 2 b の内部構成を示す外観斜視図である。図 5 は、本実施形態に係る遊技機 1 のキャビネット 2 b の内部構成を示す側面図である。

## 【 0 0 5 8 】

10

図 4 及び図 5 に示すように、キャビネット 2 b の上部側 T には、サブリールユニット 2 1 ( 第 2 変動表示装置 ) が設けられている。サブリールユニット 2 1 は、前面扉 2 a を閉じた状態における第 1 表示窓 2 2 a と対向する位置に配設されている ( 図 5 参照 ) 。具体的には、サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R は、前面扉 2 a を閉じた状態において、第 1 表示窓 2 2 a に設けられた 3 つの開口 2 2 L , 2 2 C , 2 2 R を通じて、遊技者が各サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R の動作や各サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R 上に描かれている図柄を視認可能に配設されている。また、サブリールユニット 2 1 は、前面扉 2 a を閉じた状態におけるメインリールユニット 3 0 A の上部側 T に配設されている。

## 【 0 0 5 9 】

20

サブリールユニット 2 1 は、複数種類の図柄が各々の外周面に描かれた 3 個のサブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R と、サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R の周囲を覆うように形成されるリール収容カバー 2 1 A と、を主体に構成されている。

## 【 0 0 6 0 】

サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R は、メインリール 3 L , 3 C , 3 R を相対的に大型化したリールであり、演出に係る図柄が周面に描かれている。サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R は、それぞれが縦方向に一定の速度で回転できるようにキャビネット 2 b の幅方向 ( 図 4 における「 L - R 1 方向」 ) に並列状態 ( 横一列 ) に配設されている。

## 【 0 0 6 1 】

30

リール収容カバー 2 1 A は、全体が略円弧型に形成された主カバー部 2 1 a と、一対の側面カバー部 2 1 b と、を主体に構成されている。主カバー部 2 1 a は、サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R を保護するようにサブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R の背面側 ( キャビネット 2 b の裏面側 ) を被覆する。一対の側面カバー部 2 1 b は、並列状態に配設されたサブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R の両側を保護する。サブリールユニット 2 1 は、サブリール 2 1 L , 2 1 C , 2 1 R がリール収容カバー 2 1 A に保護された状態で、キャビネット 2 b の内部に設けられた載置部 2 8 に取り付けられる。

## 【 0 0 6 2 】

40

キャビネット 2 b の床面には、ホッパー 4 0 が配設されている。ホッパー 4 0 は、開放部 4 2 と、ホッパータンク 4 3 と、メダル排出機構 ( 図示せず ) と、を主体に構成されている。開放部 4 2 は、ホッパー 4 0 の上部に設けられており、略矩形状に形成されている。開放部 4 2 には、前述のメダル補給部 8 0 又は案内部 5 3 から流通されるメダル若しくは管理者により補給されるメダルが投入される。ホッパータンク 4 3 は、開放部 4 2 と連続しており、開放部 4 2 に投入されたメダルを貯留する。

## 【 0 0 6 3 】

メダル排出機構は、ホッパータンク 4 3 に貯留されたメダルを遊技結果に応じて排出する。具体的には、メダル排出機構は、遊技結果に応じて払い出されるメダルを排出部 4 6 に排出する ( 図 3 参照 ) 。排出部 4 6 は、キャンセルシュート 5 2 の下部に連結されており、排出部 4 6 に排出されたメダルは、キャンセルシュート 5 2 の下部から前面扉 2 a の下部側 B に開口したメダル払出口 1 4 ( 図 1 参照 ) を介して、メダル受け部 1 5 に払い出される。

## 【 0 0 6 4 】

50

また、ホッパー 40 の他方側 L には、キャビネット 2 b 内の各電気部品などに電力を供給する電源部 47 が設けられている。また、キャビネット 2 b の上部側 T には、主制御回路 71 と副制御回路 72 とがそれぞれ取り付け固定されている。また、キャビネット 2 b の他方側 L の端部には、上部側 T と下部側 B に、前面扉 2 a を回動可能に軸支する軸受け部 28 a, 28 b がそれぞれ設けられている。

【0065】

図 5 に示すように、ホッパー 40 の上方には、ホッパー 40 の開放部 42 の一部を覆うようにスピーカボックス 100 が配設されている。また、スピーカボックス 100 は、前面扉 2 a を閉じた状態において、メインリールユニット 30 A と対向する位置に配設される。更に、スピーカボックス 100 は、前面扉 2 a を閉じた状態における案内部 53 と接

10

【0066】

ここで、図 6 ~ 図 12 を参照して、本実施形態による遊技機 1 に取り付けられるスピーカボックス 100 について説明する。なお、図 6 ~ 図 12 に示すスピーカボックス 100 には、スピーカユニット 101 が取り付けられている。

【0067】

図 6 は、本実施形態に係る遊技機 1 のキャビネット 2 b の内部に配設されるスピーカボックス 100 とホッパー 40 を示す外観斜視図である。図 7 は、本実施形態に係る遊技機 1 に配設されるスピーカボックス 100 の外観斜視図である。図 8 は、本実施形態に係る遊技機 1 に配設されるスピーカボックス 100 の正面図である。図 9 は、本実施形態に係る遊技機 1 に配設されるスピーカボックス 100 の背面図である。図 10 は、本実施形態に係る遊技機 1 に配設されるスピーカボックス 100 の平面図である。図 11 は、図 9 の X - X 断面図である。図 12 は、図 9 の Y - Y 断面図である。

20

【0068】

図 6 に示すように、スピーカボックス 100 は、キャビネット 2 b の内部において、ホッパー 40 の上方に配設されている。具体的には、ホッパー 40 の開放部 42 の一部を覆うようにホッパー 40 の上方に配置されている。

【0069】

図 7 に示すように、スピーカボックス 100 は、第 1 ボックス 110 と、第 2 ボックス 120 と、連通部 130 と、を主体に構成されている。第 1 ボックス 110 には、スピーカユニット 101 が取り付けられており、第 2 ボックス 120 には、第 2 ボックス 120 の内部とスピーカボックス 100 の外部とを連通させる放音パイプ 150 (放音パイプ) が内蔵されている。また、第 1 ボックス 110 と第 2 ボックス 120 とは並列に配置されており、連通部 130 は、第 1 ボックス 110 と第 2 ボックス 120 とを連通させている。

30

【0070】

本実施形態によるスピーカボックス 100 は、第 1 ボックス 110 及び第 2 ボックス 120 がスピーカユニット 101 の背面側から出力された音に対する音響空間を構成し、放音パイプ 150 と連通部 130 とがバスレフポートを構成する、いわゆるダブルバスレフ型のスピーカボックスである。

40

以下、ダブルバスレフ型のスピーカボックス 100 において、スピーカユニット 101 が取り付けられる側を正面側とし、正面側と反対側を背面側というものとして説明する。

【0071】

第 1 ボックス 110 は、略円筒形に形成されている。第 1 ボックス 110 の長手方向における一端側 (スピーカユニット 101 の正面側) には、開放された開放端部 111 が設けられている。開放端部 111 には、周縁に複数の取付部 117 が設けられている。取付部 117 は、第 1 ボックス 110 をキャビネット 2 b の内部側から第 1 取付部 91 に取り付けの際に用いられる。つまり、第 1 取付部 91 には、第 1 ボックス 110 の開放端部 111 側が配設される。

50

## 【 0 0 7 2 】

図 8 に示すように、第 1 ボックスの開放端部 1 1 1 には、スピーカユニット 1 0 1 が取り付けられている。具体的には、第 1 ボックス 1 1 0 の開放端部 1 1 1 には、スピーカユニット 1 0 1 の正面部を構成する円錐形の振動板 1 0 1 a が露出するようにスピーカユニット 1 0 1 が取り付けられている。

## 【 0 0 7 3 】

一方、開放端部 1 1 1 と反対側の他端側（スピーカユニット 1 0 1 の背面側）には、密封された密封端部 1 1 4 が設けられている。図 9 及び図 1 0 に示すように、第 1 ボックス 1 1 0 の密封端部 1 1 4 側の周面には、第 2 ボックス 1 2 0 と対向する位置に凹状の第 1 凹状部 1 1 2 が形成されている。第 1 凹状部 1 1 2 は、筐体 2 の前面扉 2 a を閉じた状態において、メインリールユニット 3 0 A の背面側の一部を収容可能に形成されている。また、第 1 凹状部 1 1 2 の下方側には、第 2 凹状部 1 1 3 が形成されている。第 2 凹状部 1 1 3 には、後述の第 1 パイプ 1 3 1 が接続されている（図 1 1 参照）。

10

## 【 0 0 7 4 】

また、第 1 ボックス 1 1 0 の底部には、底面部 1 1 5 が形成されている。底面部 1 1 5 は、ホッパー 4 0 の開放部 4 2 を構成する上部側縁の内、一方側 R 1 の上部側縁 4 4 c の上部側 T に配置されるように設けられている。また、スピーカボックス 1 0 0 は、底面部 1 1 5 と上部側縁 4 4 c との隙間がメダルの厚さよりも小さくなるようにホッパー 4 0 の上方に配置される。

## 【 0 0 7 5 】

20

第 2 ボックス 1 2 0 は、略円筒形に形成されている。第 2 ボックス 1 2 0 の長手方向における一端側（スピーカユニット 1 0 1 の正面側）には、密封された第 1 端部 1 2 1 が設けられている。第 1 端部 1 2 1 には、周縁に複数の取付部 1 2 7 が設けられている。取付部 1 2 7 は、第 2 ボックス 1 2 0 をキャビネット 2 b の内部側から第 2 取付部 9 4 に取り付けの際に用いられる。第 2 取付部 9 4 には、第 2 ボックス 1 2 0 の第 1 端部 1 2 1 側が配設される。

## 【 0 0 7 6 】

一方、第 2 ボックス 1 2 0 の長手方向における他端側（スピーカユニット 1 0 1 の背面側）には、密封された第 2 端部 1 2 4 が設けられている。図 9 に示すように、第 2 ボックス 1 2 0 の第 2 端部 1 2 4 には、ダクト部 1 2 4 a が形成されている。ダクト部 1 2 4 a には、第 2 ボックス 1 2 0 の内部に配置された放音パイプ 1 5 0 が連結されており、第 2 ボックス 1 2 0 内に放音された音を放音パイプ 1 5 0 を介してスピーカボックス 1 0 0 の外部に放音する（図 1 2 参照）。

30

## 【 0 0 7 7 】

図 9 及び図 1 0 に示すように、第 2 ボックス 1 2 0 の第 2 端部 1 2 4 側の周面には、第 1 ボックス 1 1 0 と対向する位置に凹状の第 1 凹状部 1 2 2 が形成されている。第 1 凹状部 1 2 2 は、筐体 2 の前面扉 2 a を閉じた状態において、メインリールユニット 3 0 A の背面の一部を収容可能に形成されている。また、第 1 凹状部 1 2 2 の下方側には、第 2 凹状部 1 2 3 が形成されている。第 2 凹状部 1 2 3 には、後述の第 2 パイプ 1 3 2 が接続されている（図 1 1 参照）。

40

## 【 0 0 7 8 】

また、第 2 ボックス 1 2 0 の底部には、底面部 1 2 5 が形成されている。底面部 1 2 5 は、ホッパー 4 0 の開放部 4 2 を構成する上部側縁の内、他方側 L の上部側縁 4 4 a の上部側 T に配置されるように設けられている。また、スピーカボックス 1 0 0 は、底面部 1 1 5 と上部側縁 4 4 a との隙間がメダルの厚さよりも小さくなるようにホッパー 4 0 の上方に配置される。

## 【 0 0 7 9 】

図 1 1 に示すように、連通部 1 3 0 は、第 1 ボックス 1 1 0 と第 2 ボックス 1 2 0 の間に配置され、スピーカユニット 1 0 1 の背面側から第 1 ボックス 1 1 0 の内部に出力された音をバスレフポートとして第 2 ボックス 1 2 0 の内部に流通させる。連通部 1 3 0 は、

50

第 1 パイプ 1 3 1 と、第 2 パイプ 1 3 2 と、連結部 1 3 3 と、を主体に構成されている。  
なお、連結部 1 3 3 は、スピーカボックス 1 0 0 の正面側に配置されている。

【 0 0 8 0 】

第 1 パイプ 1 3 1 は、一端側が第 1 ボックス 1 1 0 に接続されている。具体的には、第 1 パイプ 1 3 1 は、一端側が第 2 凹状部 1 1 3 に接続されている。一方、第 1 パイプ 1 3 1 の他端側は、スピーカボックス 1 0 0 の正面側に延び、スピーカボックス 1 0 0 の正面側に配置された連結部 1 3 3 と接続されている。

【 0 0 8 1 】

第 2 パイプ 1 3 2 は、一端側が連結部 1 3 3 に接続されている。一方、第 2 パイプ 1 3 2 の他端側は、スピーカボックス 1 0 0 の背面側に延び、第 2 ボックス 1 2 0 と接続されている。具体的には、第 2 パイプ 1 3 2 の他端側は、第 2 凹状部 1 2 3 と接続されている。

10

【 0 0 8 2 】

図 1 0 及び図 1 1 に示すように、連結部 1 3 3 は、第 1 ボックス 1 1 0 と第 2 ボックス 1 2 0 との間に配置されている。また、連結部 1 3 3 には、スピーカボックス 1 0 0 の正面側から背面側に向かって下り傾斜する傾斜部 1 3 3 a が形成されている（図 7 参照）。傾斜部 1 3 3 a は、キャビネット 2 b の背面側において、メダル補給部 8 0 の下部側 B に配置されている。傾斜部 1 3 3 a は、メダル補給部 8 0 から補給されるメダル、案内部 5 3 から案内されたメダル又は管理者により補給されるメダル等をキャビネット 2 b の床面に零すことなくホッパー 4 0 に案内する。

20

【 0 0 8 3 】

また、連結部 1 3 3 の下方側には、底面部 1 3 5 が形成されている。底面部 1 3 5 は、ホッパー 4 0 の開放部 4 2 を構成する上部側縁の内、背面側の上部側縁 4 4 b の上部側 T に配置されるように設けられている。また、スピーカボックス 1 0 0 は、底面部 1 3 5 と上部側縁 4 4 b との隙間がメダルの厚さよりも小さくなるようにホッパー 4 0 の上方に配置される。

【 0 0 8 4 】

このように構成されたスピーカボックス 1 0 0 は、スピーカユニット 1 0 1 の背面側から第 1 ボックス内に出力された効果音等を、図 1 1 及び図 1 2 に示す矢印方向に連通部 1 3 0 を介して第 2 ボックス 1 2 0 の内部に流通させ、放音パイプ 1 5 0 を介してスピーカボックス 1 0 0 の外部に放音する。これにより、十分な低音の再生が可能になる。つまり、低音域の音の出力性が向上する。

30

【 0 0 8 5 】

なお、スピーカボックス 1 0 0 における低音域の調整は、例えば、第 1 ボックス 1 1 0 又は第 2 ボックス 1 2 0 の容積や、第 1 パイプ 1 3 1、第 2 パイプ 1 3 2 又は放音パイプ 1 5 0 の直径や長さを変更したものを適宜選択することにより調整することが可能になる。

【 0 0 8 6 】

次に、図 1 3 を参照して、遊技機 1 の回路構成について説明する。図 1 3 は、本実施形態に係る遊技機の電気回路の構成を示すブロック図である。

40

【 0 0 8 7 】

遊技機 1 を構成する回路は、遊技機 1 の動作を制御する主制御回路 7 1 と、主制御回路 7 1 に電氣的に接続するアクチュエータである周辺装置と、主制御回路 7 1 から送信される信号に基づいて各種の装置（例えば、スピーカユニット 2 5 L、2 5 R、2 6、1 0 1、サブルール 2 1 L、2 1 C、2 1 R、及び液晶表示装置 1 1 a など）を制御する副制御回路 7 2 と、主制御回路 7 1 から副制御回路 7 2 に送信される信号を中継する主中継回路 7 1 a と、副制御回路 7 2 と各種の装置とで通信される信号を中継する副中継回路 7 2 a と、を主体に構成されている。

【 0 0 8 8 】

主制御回路 7 1 は、基板上に配置されたマイクロコンピュータ 3 0 を主たる構成とする

50

。更に、主制御回路 7 1 は、乱数値の抽出を行う回路を備えて構成されている。マイクロコンピュータ 3 0 は、メイン CPU 3 1、メイン ROM 3 2、及びメイン RAM 3 3 を含んで構成される。

【 0 0 8 9 】

メイン CPU 3 1 は、メイン ROM 3 2 に記憶されたプログラムを実行して、各アクチュエータの動作を直接的又は間接的に制御する。メイン CPU 3 1 には、時刻を示し又は時間を測定するためにパルスが発生するクロックパルス発生回路 3 4 と、分周器 3 5 と、乱数発生する乱数発生器 3 6 と、発生した乱数から乱数値を抽出するサンプリング回路 3 7 とが接続されている。なお、メイン CPU 3 1 により乱数の発生及び乱数値の抽出を実行するように構成してもよい。

10

【 0 0 9 0 】

メイン ROM 3 2 は、メイン CPU 3 1 が実行するための所定のプログラム、各種テーブルなどの固定的なデータを記憶する。また、メイン ROM 3 2 には、主制御回路 7 1 から副制御回路 7 2 に送信される各種の信号に関する情報などが格納されている。なお、副制御回路 7 2 から主制御回路 7 1 にコマンドや情報などが送信されることはなく、主制御回路 7 1 から副制御回路 7 2 への一方向で通信が行われる。

【 0 0 9 1 】

メイン RAM 3 3 は、メイン CPU 3 1 がプログラムを実行する際に一時的にデータを記憶するために使用される。

【 0 0 9 2 】

20

図 1 3 の回路において、マイクロコンピュータ 3 0 からの信号により動作が制御される主要なアクチュエータとしては、1 - BET ランプ 9 a、最大 BET ランプ 9 b、ボーナス遊技情報表示部 1 6、クレジット表示部 1 7、ホッパー駆動回路 4 1 の命令により所定の枚数のメダルを払出すホッパー 4 0 と、メインリール 3 L、3 C、3 R を回転させるステッピングモータ 4 9 L、4 9 C、4 9 R とがある。

【 0 0 9 3 】

更に、ステッピングモータ 4 9 L、4 9 C、4 9 R による回転の動作を所定のパルス（以下「駆動パルス」という）を出力することにより制御するモータ駆動回路 3 9、ホッパー 4 0 の動作を制御するホッパー駆動回路 4 1、1 - BET ランプ 9 a などの点灯及び消灯を管理するランプ駆動回路 4 5、及びボーナス遊技情報表示部 1 6 などによる表示を管理する表示部駆動回路 4 8 がメイン CPU 3 1 に接続されている。これらの回路は、それぞれメイン CPU 3 1 から出力される信号を受けて、各アクチュエータの動作を制御する。

30

【 0 0 9 4 】

また、マイクロコンピュータ 3 0 が信号を発生するためにマイクロコンピュータ 3 0 へ送信される信号を発生する手段として、スタートスイッチ 6 S、ストップスイッチ 7 L S、7 C S、7 R S、1 - BET スイッチ 8 a S、最大 BET スイッチ 8 b S、C / P スイッチ 1 3 S、設定スイッチ 6 1 S、リセットスイッチ 6 2 S、メダルセンサ 1 0 S、リール位置検出回路 5 4、及び払出完了信号回路 5 5 がある。

【 0 0 9 5 】

40

スタートスイッチ 6 S は、スタートレバー 6 の操作を検出し、所定の信号を出力する。この信号に基づいて、メインリール 3 L、3 C、3 R の回転が開始される。すなわち、スタートスイッチ 6 S により行われるスタートレバー 6 の操作の検出に基づいて、メインリール 3 L、3 C、3 R は回転を開始する。

【 0 0 9 6 】

メダルセンサ 1 0 S は、メダル投入口 5 から受入れられたメダルを検出する。

ストップスイッチ 7 L S、7 C S、7 R S は、対応する停止ボタン 7 L、7 C、7 R の停止操作に応じて所定の信号を発生する。この信号に基づいて、メインリール 3 L、3 C、3 R の回転が停止する。すなわち、ストップスイッチ 7 L S、7 C S、7 R S により行われる停止操作の検出に基づいて、メインリール 3 L、3 C、3 R は回転を停止する。言

50

い換えるならば、ストップスイッチ 7 L S , 7 C S , 7 R S により行われる停止操作の検出に基づいて、図柄の変動を停止する制御が行われる。

【 0 0 9 7 】

設定スイッチ 6 1 S は、遊技店側が管理する設定キーが設定用の鍵穴に差し込まれて右方向、すなわち「 O N 」の方向に回動された状態で遊技機 1 の電源が投入される操作（以下「設定値変更操作」という）を検出する。

【 0 0 9 8 】

リセットスイッチ 6 2 S は、設定スイッチ 6 1 S により設定値変更操作の検出が行われると、遊技者にとっての有利さの度合いを区別するための指標である設定値を決定するために設けられたリセットボタン（図示せず）を押す操作を検出する。この操作がリセット  
10  
スイッチ 6 2 S により検出されると、ボーナス遊技情報表示部 1 6 に表示される設定値が「 1 」、「 4 」、「 6 」、「 H 」の 4 段階で移行する。

【 0 0 9 9 】

本実施形態では、設定値変更操作及びリセットボタンの操作が行われ、ボーナス遊技情報表示部 1 6 に表示される設定値が所望の設定値となったときにスタートレバー 6 の操作が行われることにより、所望の設定値を設定することができる構成としている。すなわち、これらの操作により、設定値「 1 」、「 4 」、「 6 」、「 H 」の 4 つの段階のうちからいずれかの段階を設定値として決定することができることとしている。言い換えると、メイン C P U 3 1 は、遊技者にとっての有利さの度合いを示す複数の設定値のうちの 1 の設定値をメイン R A M 3 3 に格納する。  
20

その後、左方向、すなわち「 O F F 」の方向に回動された状態で設定キーを引き抜く操作が行われると、設定した設定値で、遊技者が操作を行うことが可能な状態となる。

【 0 1 0 0 】

これらの操作が行われることにより、メイン C P U 3 1 により内部当籤役が決定される確率が調整され、遊技者に払出されたメダルの総数である総払出数と遊技機 1 に投入されたメダルの総数である総投入枚数とから算出されるいわゆるペイアウト率、機械割などの値が調整可能となる。

【 0 1 0 1 】

リール位置検出回路 5 4 は、メインリール 3 L , 3 C , 3 R に設けられたセンサからのパルスを受けて信号をメイン C P U 3 1 へ供給する。メイン C P U 3 1 は、この信号に基づいて、各メインリール 3 L , 3 C , 3 R が回転しているときの図柄の位置を管理する。  
30  
払出完了信号回路 5 5 は、メダル検出部 4 0 S により計数されたホッパー 4 0 から払出されたメダルの枚数が指定された所定の枚数に達すると、メダルの払出が完了したことを示す信号を発生する。

【 0 1 0 2 】

図 1 3 の回路において、乱数発生器 3 6 は、一定の数値の範囲に属する乱数を発生する。サンプリング回路 3 7 は、スタートレバー 6 が操作された後の適宜のタイミングで、乱数発生器 3 6 が発生する乱数から 1 個の乱数値を抽出する。こうして抽出された乱数値は、メイン R A M 3 3 に設けられた所定の領域（以下「乱数値格納領域」という）に格納される。  
40

【 0 1 0 3 】

メインリール 3 L , 3 C , 3 R は、ステッピングモータ 4 9 L , 4 9 C , 4 9 R に所定の駆動パルスが与えられることにより 1 回転する。ステッピングモータ 4 9 L , 4 9 C , 4 9 R の各々に与えられた駆動パルスの数は、駆動パルスの計数値としてメイン R A M 3 3 の所定の領域に書き込まれる。他方、メインリール 3 L , 3 C , 3 R が 1 回転するごとにこの所定の領域をリセットする信号（以下「リセットパルス」という）が得られる構成を採用している。このリセットパルスがリール位置検出回路 5 4 を介してメイン C P U 3 1 に入力されると、メイン R A M 3 3 に格納される駆動パルスの計数値が「 0 」に更新される。

【 0 1 0 4 】

10

20

30

40

50

本実施形態では、ステッピングモータ 49 L, 49 C, 49 R に駆動パルスが所定の回数与えられることで、メインリール 3 L, 3 C, 3 R の外周面に描かれた図柄 1 つ分だけメインリール 3 L, 3 C, 3 R が回転する構成としている。また、本実施形態では、図柄 1 つ分だけメインリール 3 L, 3 C, 3 R が回転した回数をメイン CPU 31 が計数するためにカウンタ（以下「図柄カウンタ」という）が設けられている。

#### 【0105】

そして、リール位置検出回路 54 は、所定の図柄（例えば、コードナンバー「0」が付された図柄）が窓枠表示領域 4 L の中段、窓枠表示領域 4 C の中段、及び窓枠表示領域 4 R の中段の各位置を結ぶラインに沿って表示される所定の位置でリセットパルスが得られるように構成されている。言い換えると、所定の図柄がセンターラインに沿って表示されるタイミングでリセットパルスが得られるように構成されている。ここで、図柄位置は、メイン CPU 31 がメインリール 3 L, 3 C, 3 R の外周面に描かれた図柄の位置を特定するとき用いる位置の情報である。

#### 【0106】

上記乱数値の抽出に基づく所定の内部抽籤処理により内部当籤役を決定すると、メイン CPU 31 は、遊技者が停止ボタン 7 L, 7 C, 7 R を操作したタイミングでストップスイッチ 7 L S, 7 C S, 7 R S から送られる信号に基づいて、メインリール 3 L, 3 C, 3 R の回転の停止を指示する信号をモータ駆動回路 39 に送る。

#### 【0107】

そして、入賞が成立すれば、メイン CPU 31 によりメダルの払出しを開始することを指示する信号がホッパー駆動回路 41 に供給されてホッパー 40 から所定の枚数のメダルが払出される。その際、メダル検出部 40 S は、ホッパー 40 から払出されるメダルの枚数を計数し、その計数値が指定された数に達した時に、メダルの払出しを終了することを指示する信号がメイン CPU 31 に入力される。これにより、ホッパー駆動回路 41 を介してホッパー 40 の駆動が停止され、メダルの払出しが終了する。

#### 【0108】

副制御回路 72 では、主制御回路 71 から送信されたコマンドに基づき、予め記憶されたプログラムを実行して、各アクチュエータの動作を直接的又は間接的に制御する。副制御回路 72 が制御するアクチュエータとしては、液晶表示装置 11 a、サブリール 21 L, 21 C, 21 R、スピーカ 25 L, 25 R、26、101 などがある。

#### 【0109】

例えば、副制御回路 72 では、予め記憶された所定のプログラムに従って、液晶表示装置 11 a に演出に係る様々な映像を表示させる。例えば、所定のキャラクターを登場させ、キャラクターに入賞に係るヒント等を表示させたり、遊技の状況を報知又は告知したりする。また、図柄が描かれたリールを表示させ、遊技に係る情報を報知又は告知したりする。

#### 【0110】

また、副制御回路 72 では、予め記憶された所定のプログラムに従って、サブリール 21 L, 21 C, 21 R にメインリール 3 L, 3 C, 3 R では行えない様々な演出を行わせる。例えば、サブリール 21 L, 21 C, 21 R を逆回転させたり、各サブリール 21 L, 21 C, 21 R をそれぞれ異なる回転速度で回転させたり、各サブリール 21 L, 21 C, 21 R それぞれを演出の態様に応じて移動させたり、各サブリール 21 L, 21 C, 21 R に描かれている図柄を動かしたりする等の様々な演出を行わせる。

#### 【0111】

更に、副制御回路 72 では、予め記憶された所定のプログラムに従って、スピーカ 25 L, 25 R、26、101 に様々な音を出力させる演出を行わせる。例えば、遊技の状況や態様に関連させた効果音を出力させたり、液晶表示装置 11 a に表示されるキャラクター等の音声を出力させる。また、例えば、各スピーカ 25 L, 25 R、26、101 それぞれに異なる効果音等を出力させたり、高音及び重低音を割り当てて出力させることにより、音による演出に臨場感を生じさせる。

10

20

30

40

50

## 【0112】

以上のように構成された本実施形態に係る遊技機1によれば、遊技機1は、以下のような効果を奏する。

本実施形態に係る遊技機1は、スピーカユニット101の背面側を密封する第1ボックス110と、第1ボックス110と第2ボックス120とを連通させ、スピーカユニット101の背面側から第1ボックス110の内部に出力された音を第2ボックス120に流通させる連通部130と、第2ボックス120の内部に流通された音を放音する放音パイプ150が内蔵された第2ボックス120と、を有するスピーカボックス100を備える。つまり、本実施形態に係る遊技機1は、放音パイプ150と連通部130とがバスレフポートを構成する、いわゆるダブルバスレフ型のスピーカボックス100を備える。

10

## 【0113】

ダブルバスレフ型のスピーカボックス100は、スピーカユニット101の背面側から出力される音を共振させて位相を反転させ、スピーカユニット101の前面から出力される音と同位相にした音を放音パイプ150から放音させることが可能になる。つまり、ダブルバスレフ型のスピーカボックス100は、スピーカユニット101の背面側から出力される音が前面側から出力される音と逆位相により打ち消しあわず、互いに同位相で重畳され強調させることができる。すなわち、重低音を増幅させることが可能になる。

これにより、本実施形態に係る遊技機1は、臨場感に溢れる演出を行うことが可能になり、遊技者の遊技に対する興味や興奮を高揚させることができる。

20

## 【0114】

また、本実施形態に係る遊技機1は、第1ボックス110及び第2ボックス120の2つのボックスがスピーカユニット101の背面側から出力された音に対する音響空間を構成する。そのため、本実施形態に係る遊技機1は、2つのボックスを用いることにより、スピーカボックス100の内部空間の容積を大きくすることが可能になる。これにより、本実施形態に係る遊技機1は、スピーカボックス100から出力される効果音等の放音特性を向上させることが可能になる。

## 【0115】

また、第1ボックス110と第2ボックス120とを一体に形成せず、分解可能に構成した場合においては、例えば、適宜、好ましい容積を有する第1又は第2ボックスを選択することにより、スピーカボックス100における低音域の調整が容易になる。

30

## 【0116】

ここで、図14に本実施形態に係る遊技機1のスピーカボックス100とホッパー40との位置関係を示すキャビネット2bの正面図を示す。また、図15に本実施形態に係る遊技機1の遊技機に係る機器の位置関係を示す筐体の側面図を示す。

## 【0117】

図14及び図15に示すように、本実施形態に係る遊技機1は、ホッパー40に設けられる開放部42の少なくとも一部を覆うように、スピーカボックス100をホッパー40の上方側に配置している。そのため、本実施形態に係る遊技機1は、案内部53又はメダル補給部80から、若しくは管理者によりメダルが開放部42に投入された時に、例えば、ホッパータンク43内におけるメダルの偏った堆積やメダルの落下速度等により、ホッパータンク43からメダルが跳ね返った場合においても、スピーカボックス100の底部（例えば、第1及び第2ボックスの底面部115、125）に衝突させることが可能になる。これにより、本実施形態に係る遊技機1は、メダルがホッパータンク43の外部に飛散することを防止することが可能になる。

40

## 【0118】

更に、本実施形態に係る遊技機1は、メダルがホッパータンク43の外部に飛散することを防止することにより、キャビネット2bの床面等にメダルが散点することを防止することが可能になる。これにより、遊技機1の保守作業が容易になる。

## 【0119】

また、本実施形態に係る遊技機1は、例えば、ホッパータンク43内におけるメダルが

50

偏って堆積し続けた場合においても、スピーカボックス１００の底部（例えば、第１及び第２ボックスの底面部１１５，１２５）に堆積したメダルが接触することにより、偏って堆積したメダルの更なる偏った堆積を抑制することが可能になる。つまり、メダルを押さえつけることにより、偏ったメダルの堆積を抑制することが可能になる。これにより、上記と同様の効果を生じさせることが可能になる。

【０１２０】

また、本実施形態に係る遊技機１は、案内部５３に干渉しないようにホッパー４０に設けられる開放部４２の少なくとも一部を覆うようにスピーカボックス１００を配置している。そのため、本実施形態に係る遊技機１は、メダル投入口５から投入されるメダルのホッパー４０への投入を妨げることなくスピーカボックス１００を配置させることが可能になる。

10

【０１２１】

また、本実施形態に係る遊技機１は、スピーカボックス１００と開放部４２との隙間がメダルの厚さよりも小さくなるようにスピーカボックス１００が配置されている。そのため、例えば、スピーカボックス１００と開放部４２との隙間からメダルがホッパー４０の外部に零れることを防止することが可能になる。これにより、本実施形態に係る遊技機１は、キャビネット２ｂの床面等にメダルが散点することを防止することが可能になり、遊技機１の保守作業が容易になる。

【０１２２】

また、本実施形態に係る遊技機１は、遊技に係る図柄を変動表示させるメインリールユニット３０Ａに加え、演出に関する図柄を変動表示させ、メインリールユニット３０Ａよりも大型のサブリールユニット２１を備えている。そのため、本実施形態に係る遊技機１は、サブリールユニット２１で行う演出に意外性及び迫力のある演出を行わせることができる。これにより、本実施形態に係る遊技機１は、遊技者の遊技に対する期待感を増して遊技の興趣のより一層の向上を図ることができる。

20

【０１２３】

更に、本実施形態に係る遊技機１は、小型のメインリールユニット３０Ａの背面側にスピーカボックス１００を配置している。そのため、本実施形態に係る遊技機１は、メインリールユニット３０Ａ及び大型のサブリールユニット２１を有する場合においても、筐体２の内部空間を有効に利用することが可能になる。

30

【０１２４】

また、本実施形態に係る遊技機１は、スピーカボックス１００に前面扉２ａを閉じた状態におけるメインリールユニット３０Ａの背面の一部を収容可能な第１凹状部１１２，１２２が形成されている。そのため、本実施形態に係る遊技機１は、メインリールユニット３０Ａと干渉することなく、スピーカボックス１００をメインリールユニット３０Ａの背面側に配置させることが可能になる。

【０１２５】

また、本実施形態に係る遊技機１は、スピーカボックス１００の連通部１３０にスピーカボックス１００の正面側から背面側に向かって下り傾斜する傾斜部１３３ａが設けられている。また、傾斜部１３３ａは、キャビネット２ｂの内部において、キャビネット２ｂの背面側（ホッパー４０の背面側）に配置されている。そのため、本実施形態に係る遊技機１は、メダル補給部８０から補給されるメダルや案内部５３から案内されるメダル、若しくは管理者により補給されたメダルを傾斜部１３３ａにより、ホッパー４０の開放部４２に案内させることが可能になる。これにより、本実施形態に係る遊技機１は、キャビネット２ｂの床面に零すことなくメダルをホッパー４０に案内することが可能になる。

40

【０１２６】

次に、図１６から図２１を参照して、本実施形態の第１変形例に係る遊技機１Ａ、及び第２変形例に係る遊技機１Ｂについて説明する。

なお、第１及び第２変形例に係る遊技機１Ａ、１Ｂにおいては、主として、前記実施形態と異なる点を説明し、前記実施形態と同様の構成については同じ符号を付し、説明を省

50

略する。つまり、第 1 及び第 2 変形例に係る遊技機 1 A、1 B において特に説明されない点については、前記実施形態についての説明が適宜適用される。また、前記実施形態と同様の構成については、前記実施形態と同様の効果が奏される。

#### 【0127】

##### [第 1 変形例]

第 1 変形例に係る遊技機 1 A には、キャビネット 2 b A の背板にスピーカボックス 1 0 0 A を嵌挿可能な嵌挿穴 9 7 (開口部) が形成されている。第 1 変形例に係る遊技機 1 A は、スピーカボックス 1 0 0 A が嵌挿穴 9 7 から嵌挿可能に構成されていることにおいて、前記実施形態に係る遊技機 1 と相違する。以下、嵌挿穴 9 7 及びスピーカボックス 1 0 0 A を中心に説明する。

10

#### 【0128】

図 1 6 は、第 1 変形例に係る遊技機 1 A のキャビネット 2 b A の背面側を示す背面図である。図 1 6 に示すように、第 1 変形例に係る遊技機 1 A のキャビネット 2 b A の背板には、スピーカボックス 1 0 0 A を嵌挿可能な嵌挿穴 9 7 が形成されている。嵌挿穴 9 7 は、第 1 ボックス 1 1 0 A を嵌挿させる第 1 嵌挿穴 9 7 a と、第 2 ボックス 1 2 0 A を嵌挿させる第 2 嵌挿穴 9 7 b と、連通部 1 3 0 A を嵌挿させる第 3 嵌挿穴 9 7 c と、を主体に構成されている。

#### 【0129】

第 1 嵌挿穴 9 7 a は、前記実施形態における第 1 取付部 9 1 に設けられている。第 1 嵌挿穴 9 7 a は、第 1 ボックス 1 1 0 A の正面側の外形と略同形状に形成されている。第 2 嵌挿穴 9 7 b は、前記実施形態における第 2 取付部 9 4 に設けられている。第 2 嵌挿穴 9 7 b は、第 2 ボックス 1 2 0 A の正面側の外形と略同形状に形成されている。第 3 嵌挿穴 9 7 c は、メダル補給部 8 0 が設けられる補給口 8 1 の下部側 B に設けられている。第 3 嵌挿穴 9 7 c は、第 1 嵌挿穴 9 7 a と第 2 嵌挿穴 9 7 b とを連結し、連通部 1 3 0 A の外形と略同形状に形成されている。つまり、嵌挿穴 9 7 は、スピーカボックス 1 0 0 A をキャビネット 2 b A の外部から嵌挿可能に形成されている。

20

#### 【0130】

第 1 嵌挿穴 9 7 a の周囲には、キャビネット 2 b A の外部から嵌挿穴 9 7 を介して嵌挿された第 1 ボックス 1 1 0 A を固定する 3 つのネジ穴 9 8 a , 9 8 b , 9 8 c が形成されている。同様に、第 2 嵌挿穴 9 7 b の周囲には、キャビネット 2 b A の外部から嵌挿穴 9 7 を介して嵌挿された第 2 ボックス 1 2 0 A を固定する 3 つのネジ穴 9 9 a , 9 9 b , 9 9 c が形成されている。

30

#### 【0131】

図 1 7 は、第 1 変形例に係る遊技機 1 A に配設されるスピーカボックス 1 0 0 A の外観斜視図である。

図 1 7 に示すように、スピーカボックス 1 0 0 A は、スピーカユニット 1 0 1 が取り付けられた第 1 ボックス 1 1 0 A と、放音パイプ (図示せず) が内蔵された第 2 ボックス 1 2 0 A と、第 1 ボックスと第 2 ボックスとを連通させる連通部 1 3 0 A と、を主体に構成されている。

40

#### 【0132】

第 1 ボックス 1 1 0 A には、の正面側の縁部に 3 つの取付部 1 1 7 A , 1 1 7 A , 1 1 7 A が設けられている。3 つの取付部 1 1 7 A , 1 1 7 A , 1 1 7 A は、キャビネット 2 b A に設けられた 3 つのネジ穴 9 8 a , 9 8 b , 9 8 c と対応可能に形成されており、ネジ部材を用いて第 1 ボックス 1 1 0 A をキャビネット 2 b A に固定する際に用いられる。

#### 【0133】

また、第 2 ボックス 1 2 0 A には、の正面側の縁部に 3 つの取付部 1 2 7 A , 1 2 7 A , 1 2 7 A が設けられている。3 つの取付部 1 2 7 A , 1 2 7 A , 1 2 7 A は、キャビネット 2 b A に設けられた 3 つのネジ穴 9 9 a , 9 9 b , 9 9 c と対応可能に形成されており、ネジ部材を用いて第 2 ボックス 1 2 0 A をキャビネット 2 b A に固定する際に用いられる。

50

## 【 0 1 3 4 】

第 1 変形例に係る遊技機 1 A は、前記実施形態に係る遊技機 1 と同様の構成により生じる効果に加え、以下の効果を奏する。

例えば、第 1 変形例に係る遊技機 1 A は、スピーカボックス 1 0 0 A がキャビネット 2 b A の背板に設けられた嵌挿穴 9 7 に嵌合可能に形成されている。そのため、スピーカボックス 1 0 0 A の内部空間の容積を大きくすることが可能になる。例えば、キャビネット 2 b A の背板の厚み分の容積を確保することが可能になる。これにより、スピーカボックス 1 0 0 A から出力される効果音等の放音特性を向上させることが可能になる。

## 【 0 1 3 5 】

また、第 1 変形例に係る遊技機 1 A は、スピーカボックス 1 0 0 A がキャビネット 2 b A ( 筐体 2 A ) の外部から嵌挿穴 9 7 を介してキャビネット 2 b A ( 筐体 2 A ) の内部に嵌挿可能に形成されると共に、キャビネット 2 b A の背板の背面側にネジ部材により係止される。そのため、キャビネット 2 b A ( 筐体 2 A ) の外部からスピーカボックス 1 0 0 A の取り外しが可能になる。例えば、キャビネット 2 b A ( 筐体 2 A ) の内部に多数の遊技に係る機器が収容されている場合においても、内部に収容される機器の配置に関係なく容易にスピーカボックス 1 0 0 A の取り外しが可能になる。これにより、遊技機 1 A のメンテナンス性を向上させることが可能になる。

## 【 0 1 3 6 】

また、第 1 変形例に係る遊技機 1 A は、例えば、前面扉 2 a を有する筐体 2 においても、前面扉 2 a を開閉することなくスピーカボックス 1 0 0 を取り外すことが可能になる。これにより、遊技機 1 A のメンテナンス性を向上させることが可能になる。

## 【 0 1 3 7 】

## [ 第 2 変形例 ]

第 2 変形例に係る遊技機 1 B は、筐体 2 の内部に配置されるスピーカボックス 1 0 0 B の形状が異なる点において、前記実施形態に係る遊技機 1 と相違する。以下、スピーカボックス 1 0 0 B を中心に説明する。

図 1 8 は、本発明の第 2 変形例に係る遊技機 1 B に配設されるスピーカボックス 1 0 0 B の外観斜視図である。図 1 9 は、本発明の第 2 変形例に係る遊技機 1 B に配設されるスピーカボックス 1 0 0 B の断面を示す斜視断面図である。

## 【 0 1 3 8 】

図 1 8 及び図 1 9 に示すように、スピーカボックス 1 0 0 B は、遊技に係る効果音等を出力するスピーカユニット 1 0 1 と、矩形状のボックス本体 1 4 0 と、を主体に構成されている。

## 【 0 1 3 9 】

図 1 9 に示すように、ボックス本体 1 4 0 は、第 1 の面 1 4 1 が開放された箱状に形成されている。スピーカユニット 1 0 1 は、スピーカカバー 1 4 2 に取り付けられた状態でボックス本体 1 4 0 の第 1 の面 1 4 1 に固定される。スピーカカバー 1 4 2 には、複数の開孔 1 4 3 が形成されており、スピーカユニット 1 0 1 の正面の振動板 1 0 1 a から出力される効果音等を放音可能に形成されている。

## 【 0 1 4 0 】

スピーカユニット 1 0 1 の背面側は、ボックス本体 1 4 0 に覆われている。言い換えると、スピーカユニット 1 0 1 は、背面側がボックス本体 1 4 0 に覆われるようにボックス本体 1 4 0 に取り付けられ、背面側が密封されている。

## 【 0 1 4 1 】

次に、キャビネット 2 b 内におけるスピーカボックス 1 0 0 A の配置状態について説明する。図 2 0 は、第 2 変形例に係る遊技機 1 B のスピーカボックス 1 0 0 B の配置位置を示すキャビネット 2 b の外観斜視図である。図 2 1 は、第 2 変形例に係る遊技機 1 B のスピーカボックス 1 0 0 B の配置位置を示すキャビネット 2 b の正面図である。なお、図 2 0 及び図 2 1 においては、サブルールユニット 2 1 は、省略している。

## 【 0 1 4 2 】

図 20 に示すように、スピーカボックス 100B は、開放部 42 の一部を覆うように、ホッパー 40 の上部側 T に配設されている。具体的には、スピーカボックス 100B は、図 21 に示すように、開放部 42 を構成するホッパー 40 の他方側 L の上部側縁 44a の上部側 T に配設されている。また、スピーカボックス 100B は、図 21 に示すように、補給口 81 の他方側 L に設けられた第 2 取付部 94 に取り付けられている。スピーカボックス 100B は、ネジ部材（図示せず）により固定されている。

【0143】

第 2 変形例に係る遊技機 1B は、前記実施形態と同様の構成により生じる効果に加え、以下の効果を奏する。

例えば、第 2 変形例に係る遊技機 1B は、スピーカボックス 100A が開放部 42 の一部を覆うように、開放部 42 を構成するホッパー 40 の他方側 L の上部側縁 44a の上部側 T に配設される。そのため、例えば、開放部 42 に投入されたメダルがホッパータンク 43 の内部から飛散した場合においても、スピーカボックス 100A の底面部に衝突し、キャビネット 2b の床面に零れることを抑制させることが可能になる。

【0144】

また、第 2 変形例に係る遊技機 1B は、スピーカユニット 101 の背面側をボックス本体 140 で覆う密封型のスピーカボックス 100B を用いて構成している。そのため、第 2 変形例に係る遊技機 1B は、例えば、位相特性の優れた音を出力させることが可能になる。

【0145】

また、第 2 変形例に係る遊技機 1B は、外形が複雑な形状を有さないボックス本体 140 から構成されている。そのため、第 2 変形例に係る遊技機 1B は、例えば、少ない製造工程により製造させることが可能になる。これにより、製造コストを抑制した状態で、音質の向上した遊技機を提供することが可能になる。

【0146】

また、第 2 変形例に係る遊技機 1B は、複雑な形状を有さない直方体状に形成されている。そのため、第 2 変形例に係る遊技機 1B は、例えば、不要な収容スペースを作ることなくキャビネット 2b の内部に収容させることが可能になる。これにより、キャビネット 2b 内の収容スペースを有効に使用することが可能になる。また、例えば、キャビネット 2b の内部において、スピーカボックス 100B を収容するための収容スペースが少ない場合においても、収容が可能になる。

【0147】

以上、本発明を実施するための最良の形態及び変形例について説明したが、本発明はこれらに限定されるものではない。

例えば、本実施形態においては、小型のメインリールユニット 30A と、メインリールユニット 30A に対して相対的に大型のサブリールユニット 21 を備え、メインリールユニット 30A の背面側にスピーカボックス 100 を配置させる構成としたが、本発明においてはこれに限らない。例えば、大型のメインリールユニットと、メインリールユニットに対して相対的に小型のサブリールユニットを備え、サブリールユニットの背面側にスピーカボックス 100 を配置させる構成としてもよい。すなわち、小型のリールユニットの背面側に配置させる構成であってもよい。

【0148】

また、本実施形態においては、前面扉 2a にメインリールユニット 30A を配設させ、キャビネット 2b にサブリールユニット 21 を配設させる構成としたが、本発明においては、これに限らない。例えば、前面扉 2a にメインリールユニット 30A 及びサブリールユニット 21 を配設させる構成であってもよい。また、キャビネット 2b にメインリールユニット 30A 及びサブリールユニット 21 を配設させる構成であってもよい。

【0149】

また、本実施形態においては、前面扉 2a にメインリールユニット 30A を配設させ、キャビネット 2b にサブリールユニット 21 を配設させる構成としたが、本発明において

は、これに限らない。例えば、前面扉 2 a にサブリールユニット 2 1 を配設させ、キャビネット 2 b にメインリールユニット 3 0 A を配設させる構成としてもよい。

【0150】

また、本実施形態においては、スピーカボックス 1 0 0 の正面側（筐体の背面側）にスピーカユニット 1 0 1 を配置し、スピーカボックス 1 0 0 の背面側（筐体の前面側）に放音パイプ 1 5 0 を設ける構成としたが、本発明においてはこれに限らない。例えば、スピーカボックス 1 0 0 の正面側（筐体の背面側）にスピーカユニット 1 0 1 及び放音パイプ 1 5 0 を設ける構成としてもよい。

【0151】

また、第 1 変形例においては、キャビネット 2 b A の背板に貫通した嵌挿穴 9 7 を設け、この嵌挿穴 9 7 からスピーカボックス 1 0 0 A を嵌挿させる構成としたが、本発明においてはこれに限らない。例えば、背板にキャビネット 2 b A の内部側に凹む凹状に形成された嵌挿部を設け、嵌挿部にスピーカボックス 1 0 0 A を嵌挿させる構成であってもよい。つまり、筐体 2 の外部から筐体 2 の内部に嵌挿可能な構成であればよい。

10

【0152】

また、第 1 変形例においては、キャビネット 2 b A の背板に貫通した嵌挿穴 9 7 を設け、この嵌挿穴 9 7 からスピーカボックス 1 0 0 A を嵌挿させる構成としたが、本発明においてはこれに限らない。例えば、嵌挿穴 9 7 の下部側 B や上述の嵌挿部の下部側 B にスピーカボックス 1 0 0 A の嵌挿を補助するガイド部を設ける構成としてもよい。例えば、スピーカボックス 1 0 0 を一時的に載置する載置台を設ける構成としてもよい。なお、載置台には、スピーカボックス 1 0 0 を嵌挿する方向を案内するガイドを設ける構成としてもよい。

20

【0153】

また、第 1 変形例においては、スピーカボックス 1 0 0 A をキャビネット 2 b A の背板と水平になるようにキャビネット 2 b A の背板に取り付ける構成としたが、本発明においてはこれに限らない。例えば、スピーカボックス 1 0 0 A の第 2 ボックス 1 2 0 A をキャビネット 2 b A の背板から筐体 2 の外部側に突出させる構成としてもよい。これにより、スピーカボックス 1 0 0 A の容積を更に大きくすることが可能になる。

【0154】

また、第 1 変形例においては、スピーカボックス 1 0 0 A をキャビネット 2 b A にネジ部材により固定させる構成としたが、本発明においてはこれに限らない。例えば、スピーカボックス 1 0 0 A に爪部を設け、キャビネット 2 b A の背板に爪部と嵌合可能な嵌合部を設け、爪部を嵌合部に嵌合させることにより、スピーカボックス 1 0 0 をキャビネット 2 b A に取り付ける構成としてもよい。

30

【0155】

また、第 2 変形例においては、スピーカユニット 1 0 1 の背面側を密封させた密封型のスピーカボックス 1 0 0 B を用いる構成としたが、本発明においてはこれに限らない。例えば、密封型のスピーカボックス 1 0 0 B に低域共振用のダクトを設けたシングルバスレフ型のものであってもよい。また、スピーカボックス 1 0 0 B 内部を 2 つに区切り、各部屋の仕切り等にダクトを設けたダブルバスレフ型のものであってもよい。

40

【0156】

また、第 2 変形例においては、スピーカボックス 1 0 0 B は、ボックス本体 1 4 0 を主体に構成したが、本発明においてはこれに限らない。例えば、ボックス本体 1 4 0 から延出する延出部を補給口 8 1 の下方側に配置するように設け、延出部にキャビネット 2 b の背面側から前面側に下り傾斜する傾斜部を設ける構成としてもよい。これにより、実施形態における連通部 1 3 0 と同様の効果を奏させることが可能になる。また、この延出部の内部を中空状とし、放音パイプとさせてもよい。

【符号の説明】

【0157】

1, 1 A, 1 B 遊技機

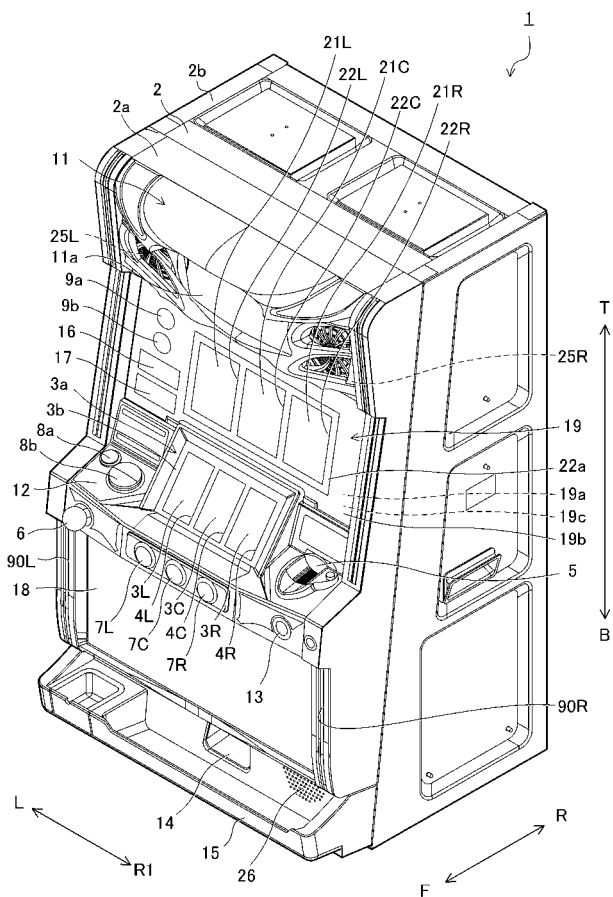
50

- 2 筐体
- 2 a キャビネット
- 2 b 前面扉
- 5 メダル投入口（投入口）
- 2 1 サブリールユニット（第 2 変動表示装置）
- 3 0 A メインリールユニット（第 1 変動表示装置）
- 4 0 ホッパー（払出装置）
- 4 2 開放部
- 5 3 案内部
- 9 7 嵌挿穴（開口部）
- 1 0 0 , 1 0 0 A , 1 0 0 B スピーカボックス
- 1 0 1 スピーカユニット
- 1 1 0 第 1 ボックス
- 1 2 0 第 2 ボックス
- 1 3 0 連通部
- 1 3 3 a 傾斜部
- 1 5 0 放音パイプ（放出パイプ）

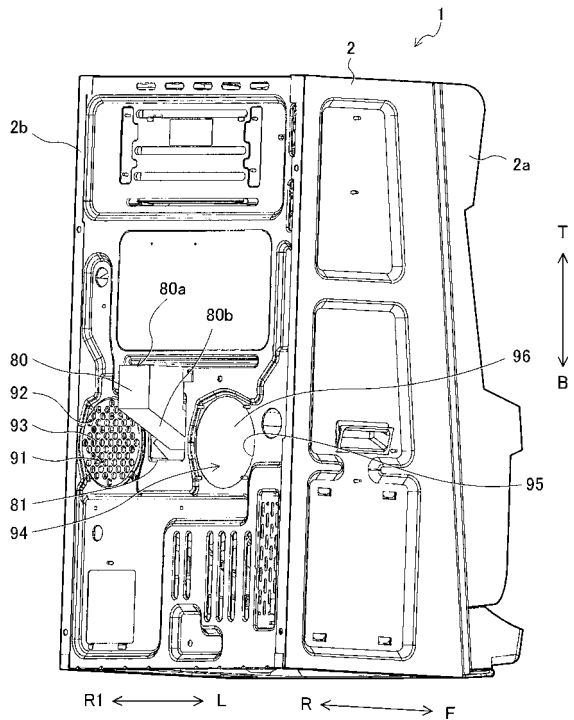
10

20

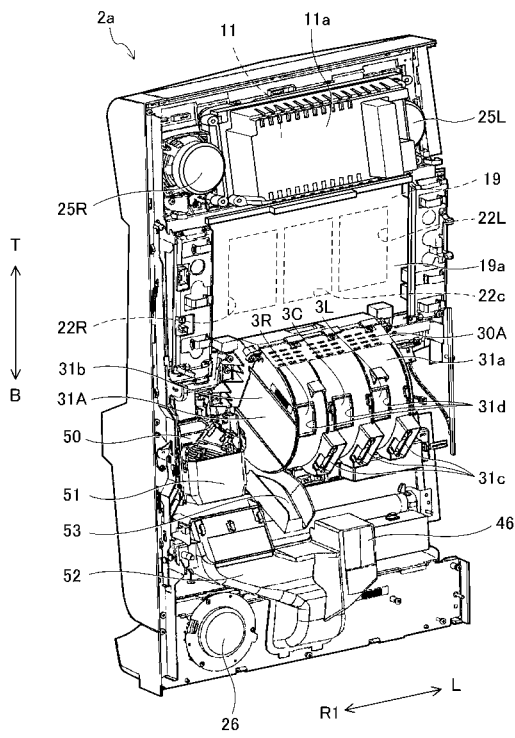
【図 1】



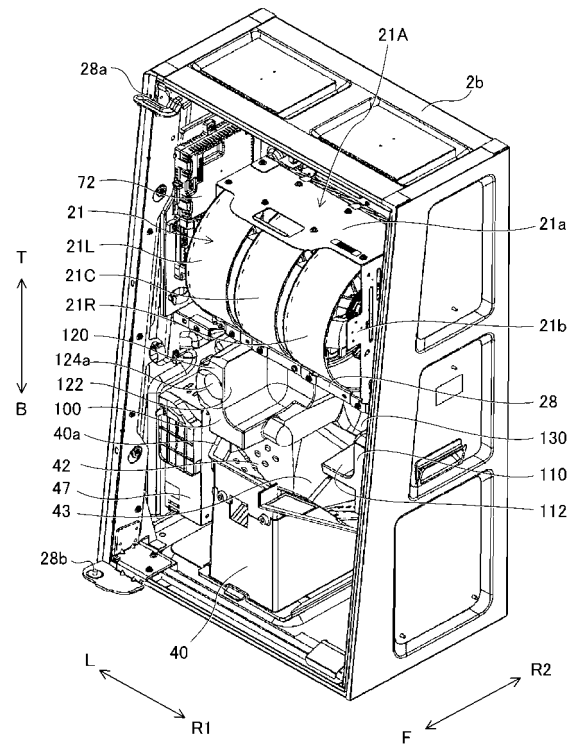
【図 2】



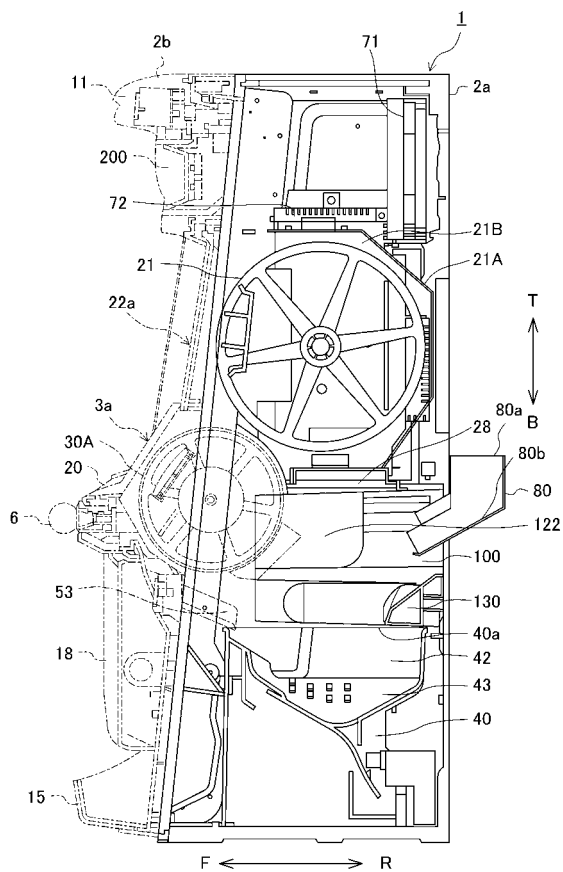
【図 3】



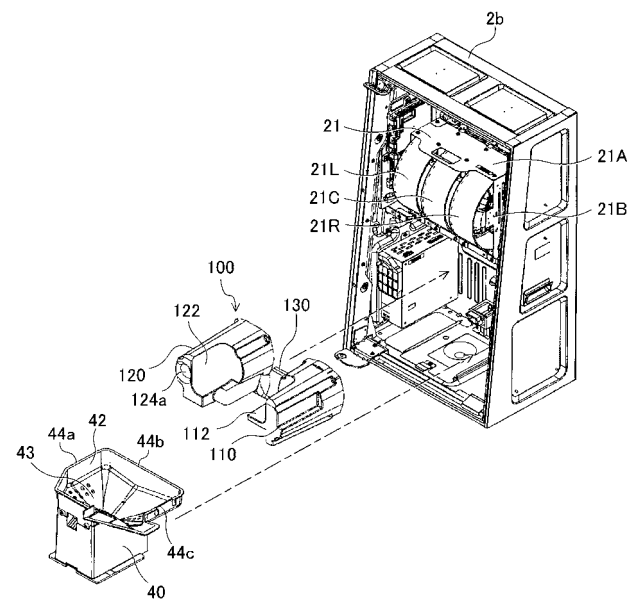
【図 4】



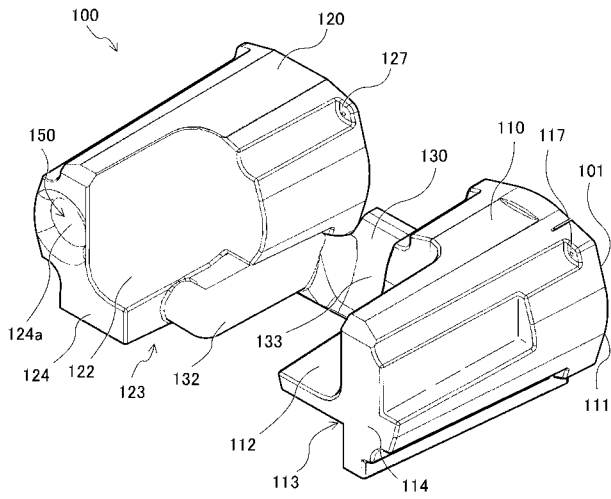
【図 5】



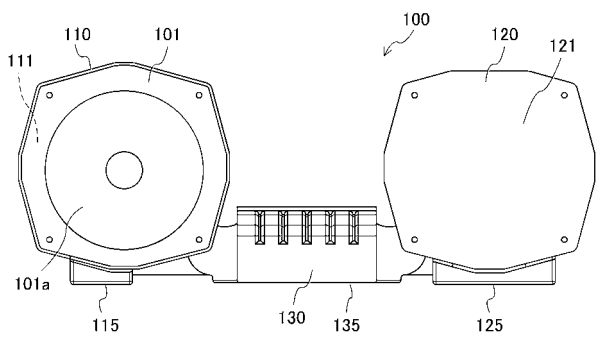
【図 6】



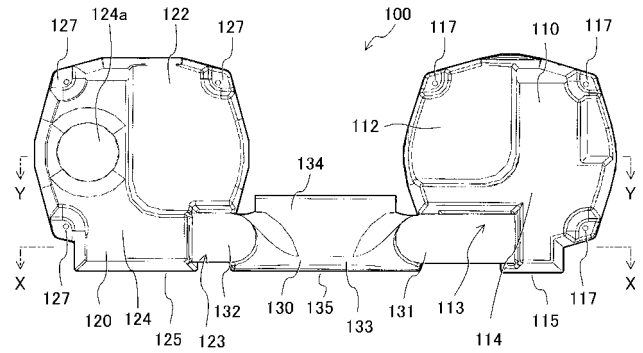
【図 7】



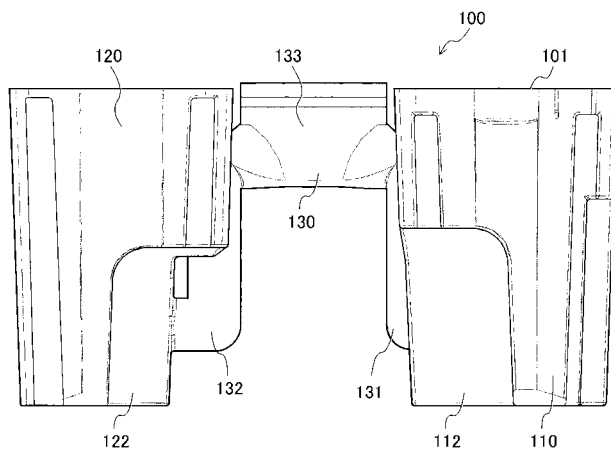
【図 8】



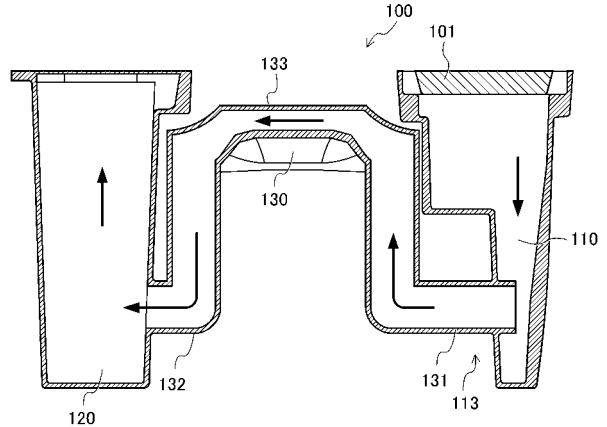
【図 9】



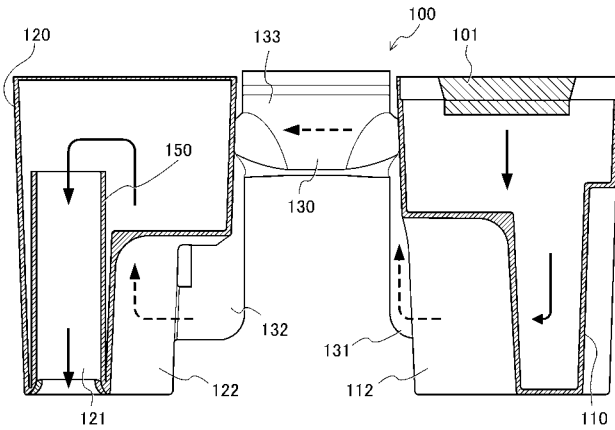
【図 10】



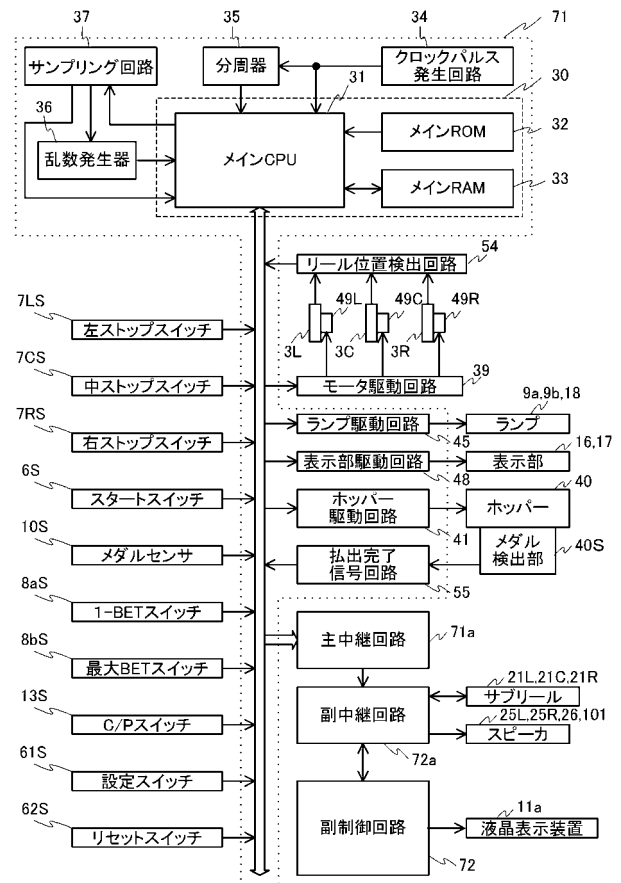
【図 11】



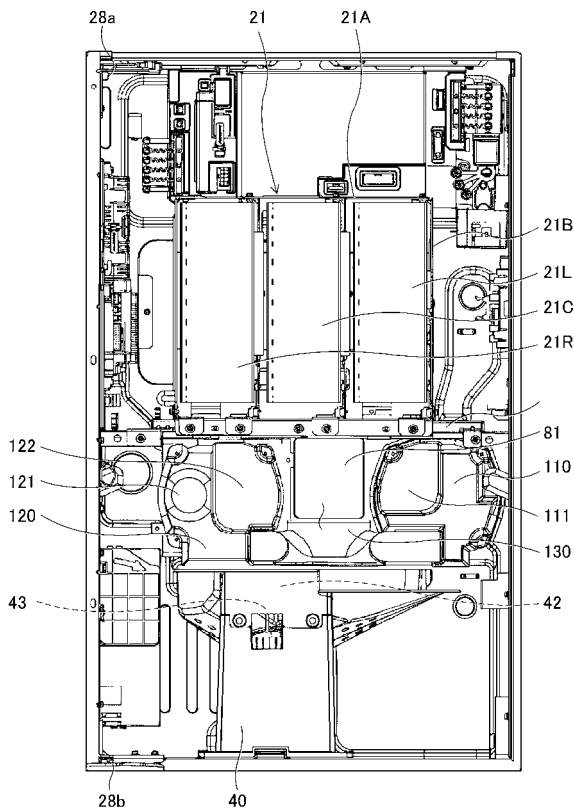
【図 1 2】



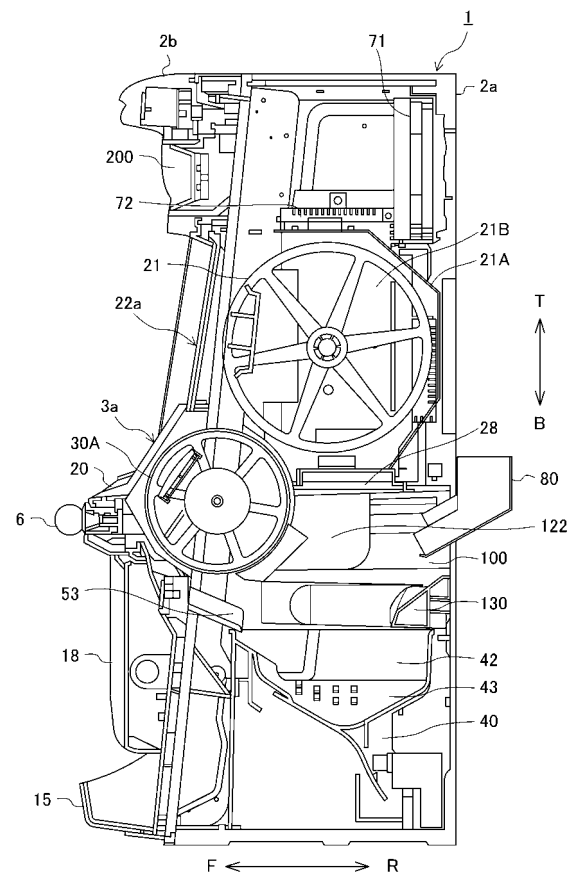
【図 1 3】



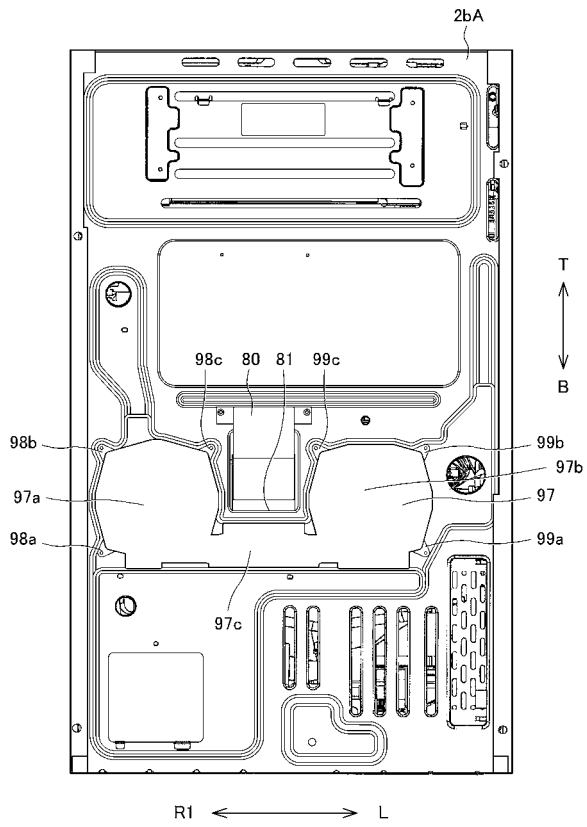
【図 1 4】



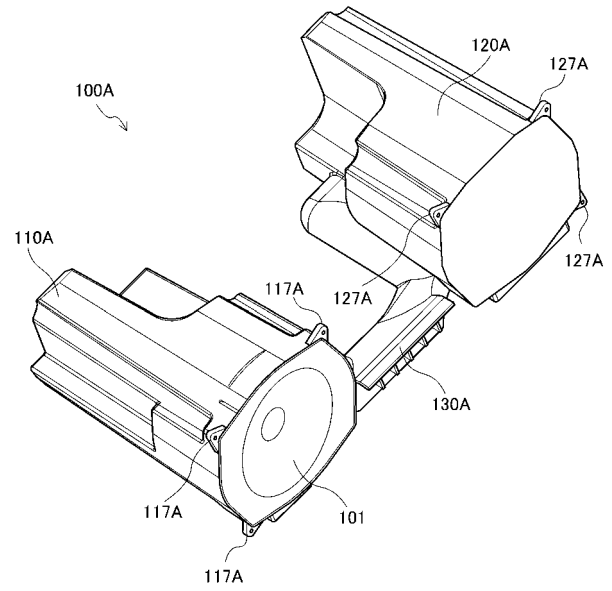
【図 1 5】



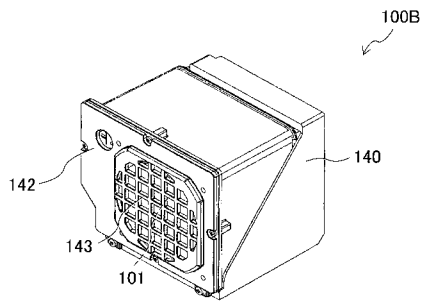
【図 16】



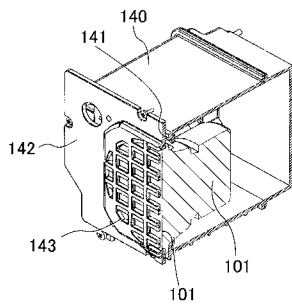
【図 17】



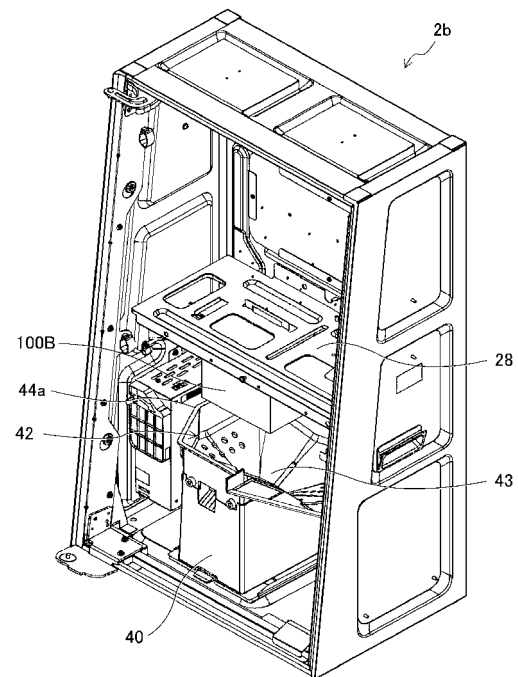
【図 18】



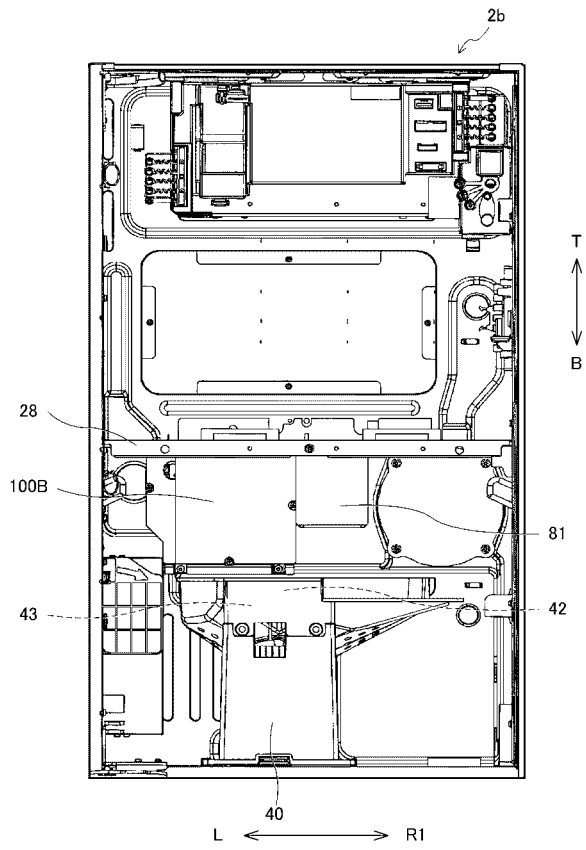
【図 19】



【図 20】



【図 21】



---

フロントページの続き

F ターム(参考) 2C082 AA02 BA02 BA22 BA32 BB02 BB78 BB79 BB80 BB83 BB93  
BB94 BB96 CA02 CA03 CA04 CA07 CA24 CA27 CB04 CB12  
CB23 CB33 CB42 CC01 CC05 CC12 CD12 CD18 CD49 DA29  
DA52 DA55 DA58 DA63 DB02 DB15 DB22